

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書**

対象年度 平成27年度

平成28年10月

和歌山市教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1
2	点検及び評価の実施方法について	1
3	事務評価委員会が対象とする事務事業について	1
4	議会への提出及び公表について	2
	別記① 和歌山市教育委員会施策体系	3
II	平成27年度教育委員会の活動状況	5
1	平成27年度教育行政方針	5
2	教育委員	9
3	教育委員会会議の開催状況	9
4	教育委員会会議議案一覧	10
5	教育委員会会議以外の主な活動状況	13
6	教育委員会の活動状況の評価	14
	別記② 和歌山市教育振興基本計画	15
III	点検及び評価	19
1	自己評価	19
2	教育委員会事務評価委員会評価	57
IV	その他	75
1	教育委員会の組織	75
2	教育費決算額	76
	① 平成27年度教育費決算額内訳	
	② 教育費決算額の推移	
3	関連法令等	77
	① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	
	② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例	
	③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	
	④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱	

I はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

2 点検及び評価の実施方法について

平成28年度に実施する点検及び評価は、平成27年度事業を対象とし、「子どもが輝き、文化が薫る教育のまち」の実現に向け取り組んでいる4項目の政策及び10項目の施策（別記①）を推進する主な事務事業を整理し、決算及び施策の成果等をまとめるものとしします。

また、教育に関する有識者による外部評価については、和歌山市教育委員会事務評価委員会において幅広い視点から事業内容を検討し、個々の事業の課題や今後の方策・方向性等について点検・評価を行い、評価の客観性及び信頼性を高めます。

和歌山市教育委員会事務評価委員会 委員

氏名	所属
富田 晃彦	和歌山大学教育学部 教授／副学部長
芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学 教授
若木 由紀	和歌山市公立幼稚園PTA連合会 会長
打田 雅子	和歌山市小学校PTA連合会 女性部長
小畑 晶子	和歌山市中学校PTA連合会 母親代表委員長
鳥居 裕史	智辯学園和歌山中学・高等学校 中学校長

3 事務評価委員会が対象とする事務事業について

教育委員会の権限に属する事務事業のうち、児童生徒に深く関係する教育行政の推進上重要な施策について、評価委員会の点検及び評価の対象事務事業として抽出し、実施するものとしします。

平成28年度については、次の8事務事業について実施しました。

和歌山市教育委員会事務評価委員会が対象とした事務事業

分野別目標	政策	施策	事務事業	担当課
子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	学校教育の充実	学校の教育力の充実	学習補充教委室推進事業 (和歌山大学との連携協力推進事業)	教職員課
		小・中学校教育の充実	不登校児童・生徒の学校復帰支援事業	子ども支援センター
			基礎学力向上事業	学校教育課
		健康教育の充実	学校体育事業(新体カテスタの実施、外部指導者の配置など)	スポーツ振興課
	青少年の健全育成	青少年の健全育成	放課後児童健全育成事業(若竹学級)	青少年課
			放課後児童健全育成事業(民間保育園)	青少年課
			こども科学館運営事業	こども科学館
	生涯学習の推進	生涯学習の推進	図書館サービス運営事業	市民図書館

4 議会への提出及び公表について

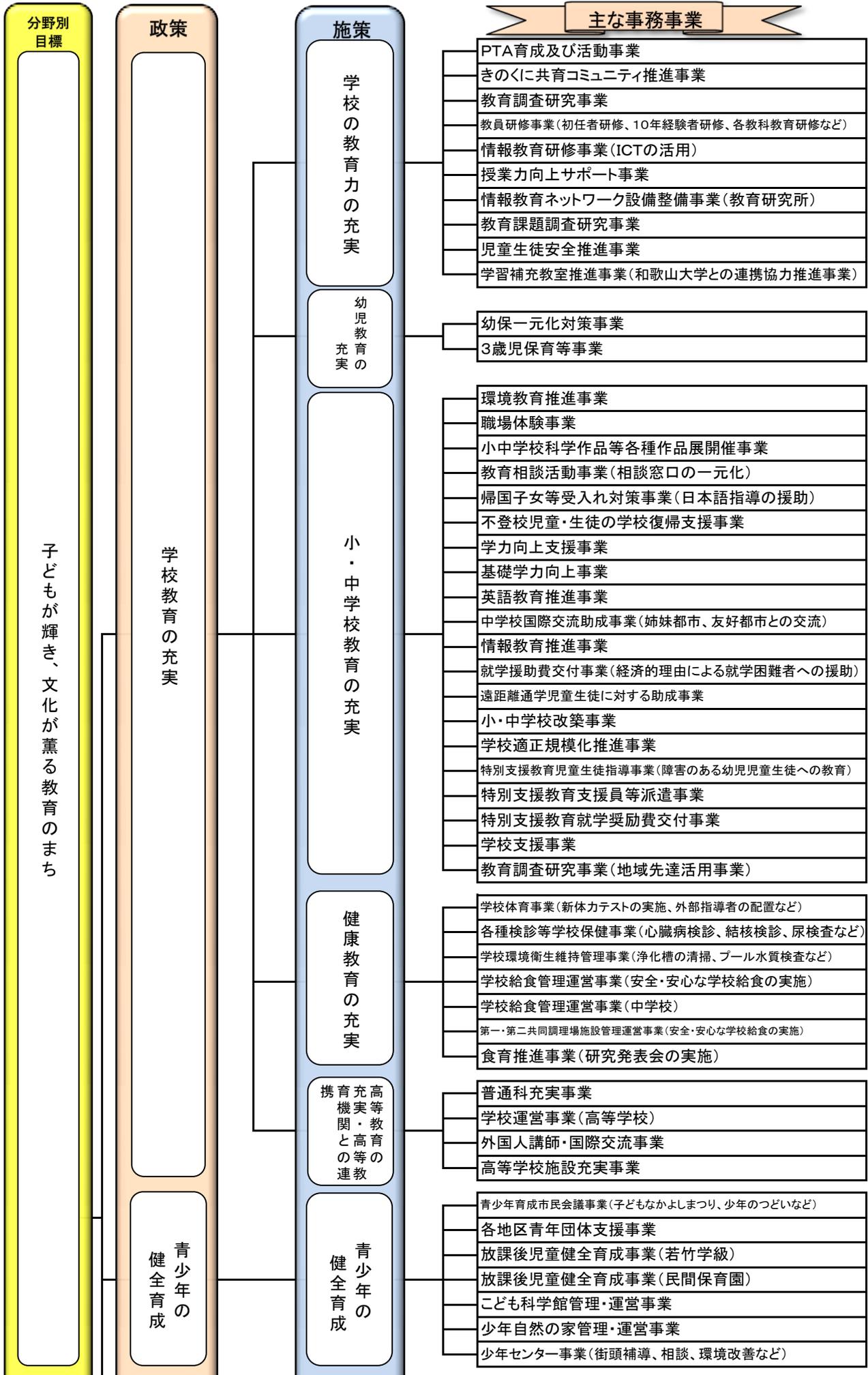
本報告書は、点検及び評価の結果をまとめたものであり、市議会へ提出するとともに公表することにより、透明性を高め効率的・効果的な事務改善に努めたいと考えます。公表に際しては、和歌山市教育委員会ホームページに掲載します。

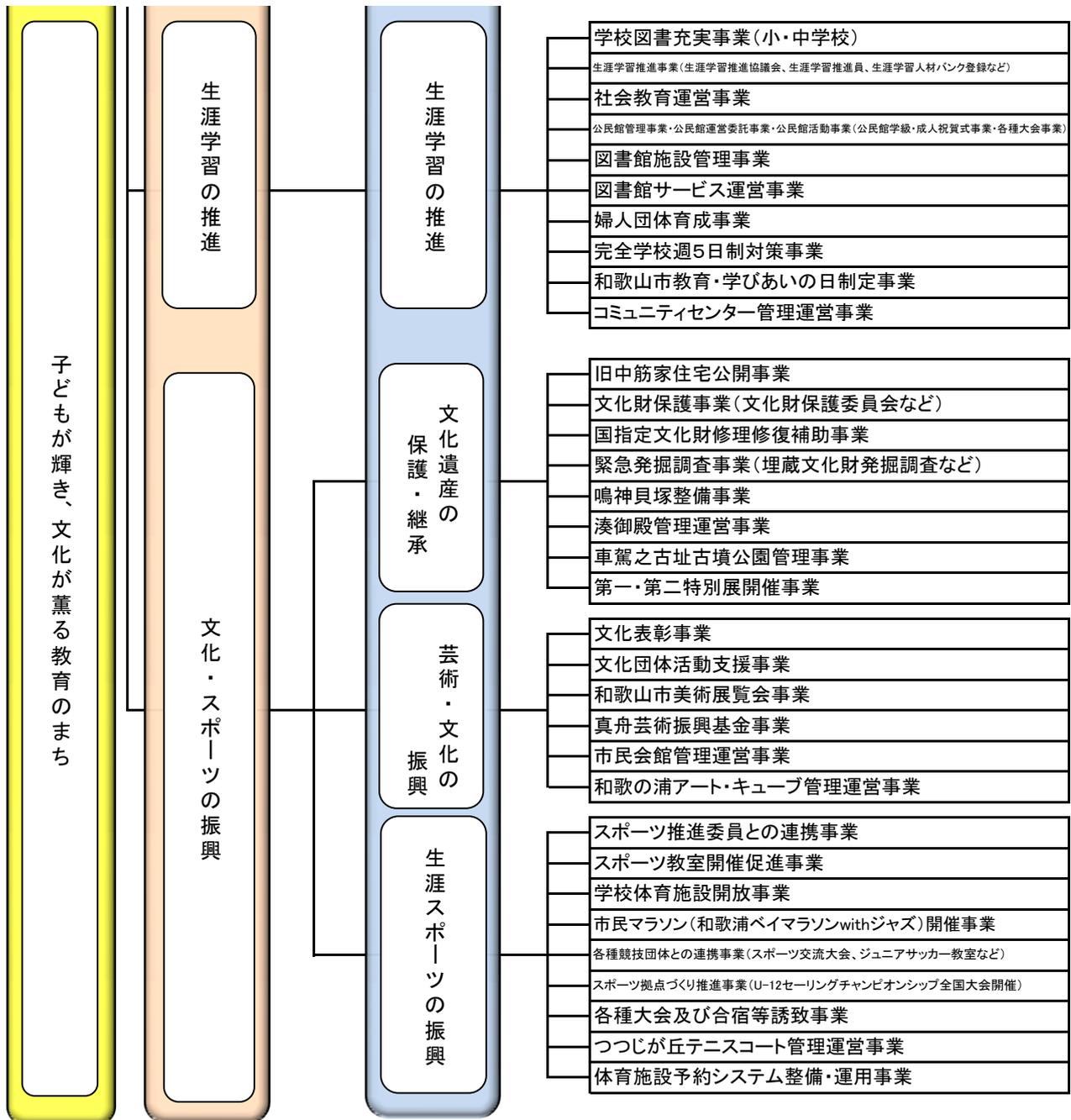
http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html

別記①

和歌山市教育委員会施策体系 (P 3～4)

和歌山市教育委員会施策体系





※ この施策体系は、平成26年度策定の第4次和歌山市長期総合計画 後期基本計画に基づき作成しています

Ⅱ 平成27年度教育委員会の活動状況

1 平成27年度教育行政方針

子どもが輝き、文化が薫る教育のまち

－21世紀を創造する人づくりを目指して－

和歌山市で育ち、学ぶことを通して、自然と歴史、文化を愛するとともに、豊かな人間性と創造性を備えた人材の育成を目指す。また、全ての人が生きがいを持ち、相互に連携協力しながら学びあうことのできる活気あふれる教育環境を創出する。

基 本 目 標

- 1 社会の変化に対応し、たくましく生きる力をはぐくむ学校教育の創造
- 2 人格形成の基礎となる家庭教育、地域文化の基盤となる社会教育の創造
- 3 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興
- 4 心身の健康保持増進とスポーツの振興
- 5 文化の振興と文化財の保護・活用
- 6 平和で人権を尊重する社会を築くための教育の充実
- 7 多様なニーズに対応する教育施設の充実

重 点 施 策

1 学校教育の創造

(1) 教育課程の充実

- ア 幼稚園教育要領・学習指導要領に基づき、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成と特色ある学校教育を推進する。
- イ 幼児期から青年期に至る子どもの成長を捉えた連続性のある教育に努める。
- ウ 今日的課題の解決に向けた教育を進め、社会の変化に対応できる子どもを育成する。
- エ 子どもの学力・体力の把握や分析をもとに、指導方法の工夫と改善を図る。
- オ 子どもの豊かな心を育て、個性を生かし、一人一人の可能性を最大に伸ばすように努める。

(2) 信頼と期待に応える学校づくりの推進

- ア 望ましい生き方を目指すキャリア教育・進路指導の充実を図る。
- イ 子どもの心身の発達に応じた適切な教育を推進するため、学校間連携や通学区域の弾力化、学校の適正規模化に努める。
- ウ 登下校等における安全確保と校内の安全管理、実践的な安全教育の充実を努める。
- エ いじめ、不登校、問題行動、児童虐待、自殺等の課題に対し、教育相談体制の整備を充実するとともに、未然防止、早期発見・対応に努め、家庭・地域や関係機関と連携し、組織的な対応ときめ細かな指導の徹底を図る。
- オ 体罰の禁止の趣旨を周知徹底し、各学校の教職員の意識向上を図るとともに、生徒指導の充実を努める。
- カ 特別支援教育を進める校内体制を充実させ、一人一人の教育的ニーズに応じた支援に努める。

- キ 市立和歌山高等学校における教育内容、教育体制の充実に努める。
- ク 子どもの生命及び身体の安全を確保するため、防災教育の充実に努める。

(3) 開かれた学校づくりの推進

- ア 学校からの情報提供に努め、保護者や地域の人々の理解と協力を得る。
- イ 学校評議員制度や学校評価制度を学校運営に生かし、信頼される学校づくりに努める。
- ウ 「教育・学びあいの日、学びあいの月間」に様々な取組を工夫して実施し、学校・家庭・地域の連携強化を図る。

(4) 多様な人材の活用と教職員の効果的配置

- ア 適材適所の人員配置に努め、教職員組織の充実に図る。
- イ 地域の豊かな人材資源を活用し、地域活力による学校支援の拡大を図る。
- ウ 複雑化する学校運営に適切に対処するため、専門家チームによるサポート体制を整える。

(5) 多様な教育課題に対応する機関の整備と研修

- ア 教育研究所を中心に研修の充実に図り、教職員としての資質と能力の向上に取り組む。
- イ こども総合支援センターの充実に図り、子どもに関する様々な問題に対して福祉・教育分野から専門的な相談・支援に取り組む。
- ウ 少年センターの効果的運営を図り、青少年の健全育成に取り組む。
- エ 教職員相互に学び合う風土を醸成するとともに若手教員の実践的指導力を高めるために、退職校長等で組織する客員指導主事の活用と授業力向上訪問研修の充実に図る。

2 家庭教育・社会教育の創造

(1) 家庭における教育機能の充実

- ア 家族のきずなを大切にし、基本的な生活習慣（早寝、早起き、規則正しい食事など）や自立心を身につけさせるため、家庭の教育力の充実に図る。
- イ 子どもが将来に対して夢や希望をもてるように、豊かな体験の充実に図る。

(2) 地域における教育機能の充実

- ア 青少年の健全育成に努めるとともに関係諸団体への支援を図る。
- イ 学校の保護者会等の理解と協力を得て、学校・家庭・地域の一層の連携を図る。
- ウ 学校施設の開放を進め、地域における文化活動の拠点としての役割を果たす。
- エ 学校週5日制にともなう子どもの多様な活動の拠点として、小学校区子どもセンターの運営支援を図る。
- オ 若竹学級を中心に、学童保育の充実に図ることで放課後児童の健全育成に努める。

3 生涯学習の振興

(1) 生涯学習基本計画に基づく生涯学習の推進

- ア 市民の生涯学習への理解と学習意欲を高めるため、普及啓発に努める。
- イ 生涯学習推進体制の整備充実と関連部局との連携を図る。
- ウ 生涯学習推進協議会の充実と関係機関等との連携を図る。
- エ コミュニティセンターと公民館が連携し、各種事業の質的向上に努める。
- オ ボランティアの育成、確保に努める。

(2) 子ども読書活動の推進

- ア 本との出会いの創出に努める。
- イ 学校・家庭・地域における読書活動の推進を図る。
- ウ 図書館における読書活動の推進に努める。
- エ 各関係機関が連携した読書活動の推進を図る。

(3) 生涯学習支援体制の整備

- ア 生涯学習関連情報の収集を拡充する。
- イ 市民に学習機会の提供をする。
- ウ 専門的職員の育成に努める。

(4) 生涯学習関連施設の整備充実と活性化

- ア 新たなコミュニティセンターの設置に努める。
- イ 学校の余裕教室等の活用を推進する。
- ウ 公民館活動の充実に努める。
- エ 生涯学習の拠点施設の整備に努める。

4 心身の健康保持増進とスポーツの振興

(1) 学校体育の充実と児童生徒の健康教育の推進

- ア 生涯にわたって運動に親しむ習慣を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- イ 生涯を通じて健康・安全に生活を送れるよう、健康教育の充実を図る。
- ウ 食生活の正しい理解と望ましい習慣を身につけるよう、学校給食の充実と食育の推進を図る。

(2) 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用

- ア スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。
- イ スポーツ・レクリエーション施設の整備を図る。
- ウ 自主的なグループ活動の育成と指導者の養成を図る。

5 文化の振興と文化財の保護・活用

- ア 市民の芸術文化活動の促進のため、啓発事業の推進を図る。
- イ 文化施設の特性を生かし、効率的効果的な活用により、質の高い芸術文化の情報発信を図る。
- ウ 文化財を保護し、その活用を図る。
- エ 展覧会等を通じ、文化財愛護の普及を図る。
- オ 市史資料等を含め、歴史的資料の調査、研究、活用、保存を図る。

6 人権・同和教育の充実

(1) 同和問題についての教育、啓発活動の推進

- ア 和歌山市同和教育方針のもと、学校をはじめさまざまな場において、同和問題を正しく理解し、互いの人権を尊重する教育の充実を図る。
- イ 同和地区児童生徒の学力向上を図り、進路保障に努める。

- ウ 家庭・地域や各種団体の教育啓発活動を充実するとともに、地域交流の促進を図る。
- エ 子ども会活動の充実を図る。

(2) さまざまな人権問題についての教育、啓発活動の推進

- ア 男女共同参画社会の実現に向け、男女平等教育の推進を図る。
- イ 障害者（児）や高齢者等の人権を守るための教育の推進を図る。
- ウ 外国人の人権を尊重し、相互理解を深めるための啓発や教育、交流活動を推進する。
- エ 「児童の権利に関する条約」についての学習を推進する。
- オ 人権教育の推進のために、地区人権委員会をはじめ、各種団体との緊密な連携を図る。

7 教育施設の整備、充実

- ア 教育や学習方法の多様化に対応した、施設、設備の充実を図るとともに教育施設等の耐震化の促進に努める。
- イ 人間性豊かな子どもを育成するための、教育環境の整備に努める。
- ウ 子どもたちのゆとりや潤いのある生活の場として、また、地域コミュニティの拠点として利用できる学校施設づくりに努める。
- エ 学校・園の新設及び統合は、将来的観点にたって検討する。

2 教育委員

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

役職名	氏名	就任年月日	任期
委員長	なかむら ひろし 中村 裕	平成16年 7月 4日	平成24年10月 1日～平成28年 9月30日
委員長職務代行者	むろ みどり 室 みどり	平成11年 3月29日	平成27年 3月29日～平成31年 3月28日
委員	なかさこ ひろし 中迫 廣	平成17年10月22日	平成25年10月22日～平成29年10月21日
委員	かねこ ふきこ 金子 富貴子	平成26年12月28日	平成26年12月28日～平成30年12月27日
教育長	はら かずき 原 一起	平成24年10月 1日	平成24年10月 1日～平成28年 9月30日

3 教育委員会会議の開催状況

月日	議案	報告	案件	月日	議案	報告	案件
4月 7日	5	3	0	9月10日	4	5	2
4月17日	1	0	0	9月17日	1	0	0
5月14日	7	1	0	10月 8日	3	5	0
6月 4日	5	0	0	11月12日	1	2	0
7月 9日	8	2	0	12月18日	2	3	0
7月17日	1	0	0	1月13日	5	2	0
7月23日	1	0	0	2月 8日	21	5	0
7月30日	1	0	0	3月10日	18	4	0
8月 6日	5	1	0	3月17日	4	0	0
8月 6日	1	0	0	3月24日	1	0	0
8月 6日	1	0	0	計	96件	33件	2件

4 教育委員会会議議案一覧

4月 7日	和歌山市立少年自然の家について
	いじめ・不登校問題に関する検討委員会委員の委嘱について
	和歌山市立認定こども園整備計画（和歌山市立幼稚園・保育所の今後のあり方）（案）について
	和歌山市立中学校教科用図書採択について
4月17日	和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択について
4月17日	人事案件について
	和歌山市指定文化財の指定について
	和歌山市立市民テニスコート条例の廃止について
	和歌山市立市民テニスコート条例施行規則の廃止について
	和歌山市立幼稚園教員採用選考検査実施について
	平成28年度使用の和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択に係る選定委員について
	和歌山市民図書館基本構想案について
5月14日	人事案件について
	小中一貫教育学校「伏虎小中学校」の新たな学校の種類「義務教育学校」への移行について
	伏虎中学校区小中一貫校建設工事について
	平成27年度6月補正予算要求見積書（案）について
	平成27年度藤戸台小学校校舎増築その他工事について
	人事案件について
6月 4日	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	平成27年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	いじめ・不登校問題に関する検討委員会委員の委嘱について
	社会教育委員の委嘱について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について
	和歌山市立博物館協議会委員の任命について
	人事案件について
	平成28年度から使用する和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択について
7月 9日	平成28年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
7月17日	平成28年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
7月23日	平成28年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
7月30日	平成28年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
8月 6日	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	平成28年度和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜の概要について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について

8月 6日	平成 27 年度 9 月補正予算要求見積書（案）について
	人事案件について
8月 6日	平成 28 年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
8月 6日	平成 28 年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択について
9月10日	和歌山市立市民テニスコートの用途廃止及び所管換えについて
	平成 28 年度和歌山市立和歌山高等学校各課程・学科の募集定員について
	通学区域の変更について
	和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
	教育委員長の選出について
	教育委員長職務代行者の指定について
9月17日	平成 28 年度から使用する和歌山市立中学校教科用図書採択に係る会議の議事録の承認について
10月 8日	平成 27 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（案）について
	平成 27 年度和歌山市教育功労者表彰について
	人事案件について
11月12日	平成 27 年度 1 2 月補正予算要求見積書（案）について
12月18日	平成 27 年度末教職員人事異動に関する方針及び努力点について
	人事案件について
1月13日	和歌山市地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条第 1 項に規定する事務を定める規則について
	平成 28 年度組織改正について
	和歌山市児童生徒文化奨励賞の授賞候補について
	和歌山市川端龍子賞等の授賞候補について
	和歌山市民会館建設基金条例の制定について
2月 8日	和歌山市立紀伊小学校小豆島分校の休校期間の延長について
	伏虎小中学校における学校給食について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について
	和歌山市立学校条例の一部を改正する条例の一部改正について
	和歌山城条例等の一部改正について
	和歌山市立体育館条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立市民スポーツ広場条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立市民温水プール条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立つつじが丘テニスコート条例施行規則の一部改正について
	和歌山市川端龍子賞等表彰規則の一部改正について
	こども科学館条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立和歌山高等学校授業料の減額及び免除に関する規程の一部改正について

2月 8日	和歌山市立少年自然の家条例の廃止について
	和歌山市立少年自然の家条例施行規則の廃止について
	和歌山市立学校条例の一部改正について
	和歌山市コミュニティセンター条例の一部改正について
	和歌山市民会館建設基金条例の名称変更について
	平成27年度2月補正予算要求見積書（案）について
	平成28年度教育委員会関連の主要事業（案）について
	特別支援学級における教科用図書について
	人事案件について
3月10日	和歌山市教育委員会会議規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
	和歌山市教育機関組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会文書取扱規程の一部改正について
	和歌山市教育委員会教育系職員の職の格付に関する規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会の事務局及び和歌山市教育委員会の所管に属する教育機関の職員の人事評価に関する規程の制定について
	和歌山市スポーツ推進委員の委嘱について
	平成28年度和歌山市学校教育指針について
	登下校時のメールサービスについて
	和歌山市民会館条例施行規則の一部改正について
	伏虎中学校区小中一貫校（伏虎義務教育学校）の校章デザインの選定について
	和歌山市立安原小学校吉原分校の在り方について
	和歌山市立小学校及び中学校通学区域並びに学校指定に関する規則の一部改正について
	和歌山市民図書館基本計画について
	人事案件について
人事案件について	
3月17日	平成28年度和歌山市学校教育指針について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について
	人事案件について
	人事案件について
3月24日	人事案件について

5 教育委員会会議以外の主な活動状況

実施日	訪問先・参加行事	内 容
4月10日	川端龍子賞等表彰式	式典への出席
4月28日	第1回総合教育会議	会議への出席
5月5日	子どもなかよしまつり	行事への出席
6月5日	和歌山県市町村教育委員会連絡協議会定期総会	総会及び講演会への出席
6月14日	和歌山市青少年育成市民会議総会	表彰式及び総会への出席
7月28日	全国高等学校総合体育大会開会式	式典への出席
8月4日	第2回総合教育会議	会議への出席
8月7日	明日の和歌山市を築くジュニア会議	会議への出席
9月26日	紀の国わかやま国体総合開会式	式典への出席
10月6日	紀の国わかやま国体総合閉会式	式典への出席
10月13日	近畿市町村教育委員会研修大会	講演会への出席
10月24日	紀の国わかやま大会開会式	式典への出席
10月26日	紀の国わかやま大会閉会式	式典への出席
11月5日	和歌山市文化表彰	式典への出席
11月8日	和歌山市教育功労者表彰式	式典への出席
11月17日 11月18日	和歌山県市町村教育委員会研修会 和歌山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	情報交換会（分科会）及び講演会への出席
11月21日	和歌山市教育・学びあいの日記念事業	式典・講演会への出席
12月15日	第3回総合教育会議	会議への出席
1月10日	はたちのつどい	式典への出席
1月15日	きのくに教育賞表彰式	式典への出席
1月30日	少年のつどい	行事への出席
2月7日	和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰式	式典への出席
2月20日	公民館フェスティバル	行事への出席
2月27日	和歌山市スポーツ賞表彰式	式典への出席
3月9日	中学校卒業式	式典への出席
3月23日	小学校卒業式	式典への出席
3月31日	退職校園長感謝状授与式	式典への出席

委員長	関係各種会議等への出席 66回
	全国市町村教育委員会連合会等団体関係各種会議への出席 10回



明日の和歌山市を築くジュニア会議



和歌山市教育・学びあいの日記念事業



和歌山市教育功労者表彰式



和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰式

6 教育委員会の活動状況の評価

【評価】

定例及び臨時教育委員会会議の開催に加えて、学校訪問や各協議会への参加などを通じて教育委員としての必要な知識を深めるとともに、各種行事や式典へ出席するなど、多岐にわたり活発に活動することができた。

また、教育委員会会議においても各委員専門分野の視点から議案等に対する活発な議論を交わし、円滑な教育行政の推進を図ることができた。

さらに、平成27年12月には本市教育の施策をより具体的に示すため「和歌山市教育振興基本計画」（別記②）を策定した。

【今後の取組】

学校訪問や教職員との意見交換などを積極的に行い、子どもたちの学習環境の改善に努めます。

また、平成27年度から新たに設置された総合教育会議において、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について引き続き協議・調整を行い、より一層民意を反映した教育行政を推進します。

別記②

和歌山市教育振興基本計画（P15～18）

別記②

和歌山市教育振興基本計画（平成27年度～平成30年度）

基本理念

ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育

教育の根幹は『人づくり』であり、その『人づくり』の基盤となるものは、学校だけでなく、家庭や地域を含めた社会全体と考えます。そこで、子どもだけでなく、子どもたちと共に過ごす家庭や地域の方々も一緒に学べる環境をつくり、地域のつながりをより強くします。また、様々な知識や経験を持った方々が結びつき、支えあうことによって、地域における課題解決や地域の発展につなげることのできる社会をつくります。

これらの取組を通して、社会全体で将来の和歌山市を創造できる人を育てる教育をめざし、これを基本理念とします。

めざす人間像

○ 自ら考え、判断し、表現する力を持ち、規律ある行動をする人間

変化の激しい現代を生きていくために、基礎的な学力はもちろん、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた上で、社会の一員としての自覚を持って規律ある行動をとることのできる人間の育成をめざします。

○ 人権を尊重し、情操豊かにたくましく生きる人間

いじめや暴力などの問題行動をなくすために、生きることの尊さを理解し、自他の生命を大切にすることを育みます。また、様々な人権問題を正しく理解し、互いの立場を理解し、よりよい人間関係を築ける人間の育成をめざします。

○ 郷土を愛し、よりよい社会の形成者となる人間

自ら育った地域の歴史や文化のよさを知り、郷土を愛する心を育みます。また、ふるさと和歌山の地域の一員として、主体的に社会に貢献できる人間の育成をめざします。

I 社会を生き抜く学力の育成

- ・ 確かな学力を育む教育の推進
- ・ グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進

子どもたちが毎日をいきいきと過ごせるよう、また、将来の夢や目標を実現するために必要な「確かな学力」を身に付けられるよう、信頼と期待に応える学校づくりに取り組みます。

さらに、日々変化していく情勢や国際化社会に対応できるよう、学力の向上だけでなく、資質や能力を伸ばし、たくましく生き抜く力を育みます。

II 豊かな心と健やかな体の育成

- ・ 豊かな心を育む教育の推進
- ・ 健やかな体を育む教育の推進
- ・ 平和で人権を尊重する社会を築くための教育の推進

人権・同和教育や道徳教育を推進し、体験活動を充実させることで、子どもたちの豊かな心を育みます。

また、子どもたちの体力向上や健康の保持増進を通して、生涯にわたって健康で安全に生活できるような健やかな体の育成に取り組みます。

III 安全・安心な教育環境の整備

- ・ 多様なニーズに対応する教育環境の整備

教育や学習方法の多様化に対応した施設、設備の充実を図るとともに、安心・快適に過ごせるように教育環境の整備や充実を図ります。

また、校外においても、安全に過ごせるよう、地域や家庭、関係機関と連携して、子どもたちを見守る環境づくりを推進します。

IV 家庭や地域における教育力の向上

- ・ 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造

子どもたちが基本的な生活習慣や自立心を身に付けるように、家庭での教育力の充実を図ります。

また、地域における社会教育の拡充を支援し、学校・家庭・地域の一層の連携を図ることで青少年の健全育成に努めます。

V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興

- ・生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興
- ・文化の振興と文化財の保護・活用
- ・スポーツの振興

地域の拠点となるコミュニティセンターを中心に、生涯学習環境の整備、充実を図るとともに、生涯を通じて文化・スポーツ活動に親しめるよう、環境の充実を図ります。

計画の体系

基本方針	基本目標	基本施策	具体的な取組
I 社会を生き抜く学力の育成	1 確かな学力を育む教育の推進	1-1 教育課程の充実と学力の向上	① 小中一貫教育の研究と推進 ② 適正な教科書採択 ③ 学力の向上 ④ 読書活動の充実 ⑤ 幼児教育の充実
		1-2 信頼と期待に応える学校づくりの推進	① 開かれた学校づくりの推進 ② 特別支援教育の充実 ③ いじめ問題への対応 ④ 不登校問題への対応 ⑤ 教育相談活動の充実 ⑥ 安全教育・防災教育の充実
		1-3 学校の組織力と教職員の指導力向上	① 専門教員の活用 ② 教員研修の充実
	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進	2-1 国際化・情報化に対応した教育の推進	① 英語教育・国際理解教育の充実 ② 情報化に対応する教育の充実
		2-2 高等教育機関との連携強化	① 大学等との連携強化と充実
	II 豊かな心と健やかな体の育成	3 豊かな心を育む教育の推進	3-1 道徳教育の充実
3-2 郷土を愛するふるさと教育の推進			① 郷土学習の推進 ② キャリア教育の推進 ③ 自然体験学習の充実
3-3 文化芸術教育の充実			① 文化芸術に関する学習や体験活動の充実
4 健やかな体を育む教育の推進		4-1 体力の向上と健康教育の充実	① 学校体育の充実 ② 健康教育の充実 ③ 食育の推進
			5 平和で人権を尊重する社会を築くための教育の推進
III 安全・安心な教育環境の整備	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備	6-1 学校教育環境の整備	① 安全・安心な教育環境の確保 ② 学校施設の充実 ③ 情報ネットワークの充実 ④ 学校図書館の充実
		6-2 学校の適正規模化の推進	① 学校適正規模化の推進
		6-3 地域・家庭・関係機関と連携した子どもたちの安全の確保	① 子どもの安全確保の推進
IV 家庭や地域における教育力の向上	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造	7-1 家庭における教育力の充実	① 家庭教育・子育て支援の充実 ② 家庭教育を支える人材育成 ③ PTA育成の推進 ④ 放課後児童の健全育成
		7-2 地域における教育力の充実	① 学校週5日制対策 ② 地域との連携・協働体制の推進 ③ 青少年の健全育成
V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興	8-1 生涯学習の推進	① 生涯学習の啓発・推進 ② 公民館活動の充実 ③ 生涯学習施設の整備・充実 ④ 市民図書館の整備・充実
			9 文化の振興と文化財の保護・活用
	9-2 文化財保護活動の推進	① 文化財の保護・活用の充実 ② 埋蔵文化財の発掘調査 ③ 博物館の充実	
	10 スポーツの振興	10-1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用	① スポーツ大会・合宿等誘致活動の促進 ② スポーツ大会・教室の充実 ③ 学校体育施設開放の推進 ④ 社会体育施設の充実と指導者の育成 ⑤ マリンスポーツ・体験型観光の推進 ⑥ 和歌浦ペイマロンの充実

Ⅲ 点検及び評価

1 自己評価(平成27年度に実施した事業の点検及び評価を行いました。)

※「担当課評価」の欄は、事業の目的達成状況を担当課で評価しています。

A:達成している B:概ね達成している C:達成していない

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	P T A 育成及び活動事業	958千円	生涯学習課	A
事業の目的	園児、児童、生徒の健全育成のために保護者を対象に、家庭教育や人権教育、学校・園と地域との連携について研修を深め、家庭や地域の教育力を高める。また、学校・園同士の交流を深めることによって、それぞれのP T Aが抱える課題を共有し、解決策を見つけるきっかけにする。			
事業の概要	講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育の研修会実施、食育や防災等に関する研修会の実施。県や近畿、日本P T A研修会への参加、スポーツ大会の実施、合唱祭の実施等への報償金・消耗品・会場借上費用の支出事務を行う。また、和歌山市公立幼稚園P T A連合会、和歌山市小学校P T A連合会、和歌山市中学校P T A連合会、和歌山市立和歌山高等学校育友会に対する補助金に関しては概算払いで支出している。			
成果	研修会9回、研修会及び交流事業に86校園が参加し、家庭教育や人権教育等の研修を深め、家庭の教育力の向上や各P T Aの抱える課題の解決のきっかけとすることができた。			
課題	社会全体の流れや生活様式の変化により、教育に関する課題が多様化・複雑化し、家庭や地域の教育力の向上がこれまでより一層重要となっている。各P T A連合会の取組への参加者が固定化しているくらいがあるなど教育への関心についても偏りが見られる。各連合会による社会や会員のニーズに応じた取組の工夫をしたり、広報等のつながりによる周知を図ったりする等、会員相互の啓発がより望まれる。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	きのくに共育コミュニティ推進事業	1,567千円	生涯学習課	A
事業の目的	学校・家庭・地域の連携を強化し、地域社会全体の教育力向上を推進する。			
事業の概要	子どもを中心に学校、家庭、地域が連携・協働し、共に育ち、育て合う関係(地域コミュニティ)の育成を目指している。各地域共育コミュニティに学校と地域をつなぐ役割として共育共育コーディネーターを配置し、学校支援活動の企画、調整を行い、地域住民が学校支援活動にボランティアとして入ることを促進する。平成20年度に西浜地域、西脇地域、平成24年度に鳴滝地域、平成27年度に貴志地域に地域共育協議会を設置し、取組を進めている。			
成果	学校支援に対して様々な取組の工夫がなされている。登下校時の見守り活動、花壇整備・校内美化、地域防災講座の開催、ゲストティーチャーとして地域の歴史講話や校区探検の引率補助など、平成27年度には4地域でのべ12,520人の地域ボランティアが関わっている。子どもに地域住民の関わる機会が増えたことで「子どもと挨拶するようになった」「教員と地域住民の対話が増えた」等の効果が報告されている。			
課題	地域共育コーディネーターを中心に、地域住民に共育コミュニティ推進について周知を図ると共に、ボランティアの更なる育成を図ること。また、地域共育コーディネーター間で連携を図り、情報交換を行うなどコーディネーターの資質向上を図ること。実績をもとにした情報発信を行い、市内各地域へ共育コミュニティを広げていくこと。			

分野別目標 5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	教育調査研究事業	2,382千円	教育研究所
事業の目的	<p>・優れた教育活動を展開する教員を教育研究所員に任命し、教育の諸課題について実践的研究を行い、その研究成果を普及させることにより、学校教育の充実と発展に資する。</p> <p>・個人や学校・グループの教育研究を奨励し、和歌山市の教育水準の高揚を図る。</p> <p>・子どもたちが郷土和歌山について学び、ふるさとの誇りと愛着の心を育成することを企図した社会科副読本「かがやく和歌山市」を作成し、小学3年生に配付する。</p>		
事業の概要	<p><研究所員活動>現職教員を教育研究所員(6班、計30名)として任命し、2年間にわたり教育の諸課題について実践的研究を行い、研究成果を各校(園)の教育実践に生かす。<教育論文表彰事業>幼・小・中・高等学校すべての校種から「教育論文・実践録」を公募し、個人・学校・グループの教育研究を奨励する。<副読本「かがやく和歌山市」の配付>和歌山市立小学校3年生全児童に、社会科副読本「かがやく和歌山市」を配付し、地域学習に生かす。</p>		
成果	<p><研究所員活動>平成26年・27年度の研究班「小学校外国語活動についての研究」「中学校国語科についての研究」「効果的な校内研修のあり方についての研究」の研究成果を発表し、その成果を普及した。<教育論文表彰事業>教育論文の応募70稿について、優秀な論文を表彰し、その成果の普及を図った。<副読本「かがやく和歌山市」の配付>平成24年度に新学習指導要領に準拠し改訂した「かがやく和歌山市」を、市立小学校3年生児童に配付し、各校で地域学習に活用した。</p>		
課題	<p><研究所員活動>研究所員の研究成果を、市内学校(園)の校(園)内研修や研究活動と連動させたものとなるよう働きかけ、校(園)内研修の活性化につながるよう企図する。</p> <p><教育論文表彰事業>若手教員が自己研鑽により実践力を育成していく観点から、自らの授業実践を論文等にまとめていくことをより一層推奨していく。</p> <p><副読本「かがやく和歌山市」の配付>子どもが、和歌山市の人・もの・ことについて学び、ふるさとと人への理解と愛着を育むことのできる内容となるよう、毎年見直しを図る。</p>		

分野別目標 5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	教員研修事業(初任者研修、10年経験者研修、各教科教育研修など)	2,428千円	教育研究所
事業の目的	<p>教員公務員特例法を準拠し、市内教員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途・その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努め、生涯を通じて学び続ける教員の実現を図る。</p>		
事業の概要	<p>①基本研修の実施 教員としてのライフステージに応じた研修を実施。主なものは、次の研修。 初任者研修、2年次研修、10年経験者研修、新任校(園)長研修、新任教頭研修、新任教務主任研修、新任特別支援学級担当教員研修、臨時的任用教員研修、実践授業研修(講師研修)等</p> <p>②専門研修の実施 教員としての実践的指導力、専門性を高めるための研修講座を実施。</p>		
成果	<p>教職員が教職生活全体を通じて学び続け、子どもたちや保護者はもとより広く社会から尊敬され、信頼される資質を備えることを企図し、充実した研修を実施することができた。</p>		
課題	<p>教員相互に学び合う校(園)内研修風土を一層醸成していくことが必要である。</p>		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課 担当課評価
	情報教育研修事業（ICTの活用）	1,608千円	教育研究所 A
事業の目的	情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなど、双方向でわかりやすい授業を実現するとともに、児童生徒の情報活用能力の向上が図れるよう、21世紀にふさわしい学校教育を実現する教職員の資質の向上を図る。		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育研修の実施（電子黒板・書画カメラ等を活用した授業づくり研修、教材作成研修、情報モラル・セキュリティ研修、校務を効率化するオフィスソフトの操作実践研修、校務支援ソフトの操作実践研修、学校ホームページ作成・更新のための操作研修 等） ・情報教育担当者会の実施 ・管理職研修の実施 ・学校訪問研修の実施 		
成果	現在、教職員のICT活用能力、児童生徒の情報活用能力の向上にむけて、充実した集合研修・学校訪問研修を実施している。本事業は、常時必須のものであり、今後も情報教育のニーズを見極め、研修のテーマを厳選し、今必要な研修内容・研修方法を吟味しながら、本事業を展開していきたい。		
課題	ICT機器の操作をすべての教員に習得してもらうための操作研修を継続しながら、ICTを授業・校務に活用する能力を育成するためのワークグループ型研修を増やしていくことが必要である。また児童生徒に情報モラル指導ができる教員を育成するための研修を、今後一層充実して行う必要がある。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課 担当課評価
	授業力向上サポート事業	4,037千円	教育研究所 A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の指導力の向上を目的に、新規採用後3年目と4年目の小・中学校の教員を対象に、研修・研究のサポートを行う。 ・客員指導主事を活用し、学校の校内研修の活性化と充実を図る。 ・中学校において学び合いの授業づくりを推進するとともに校内研修を活性化させ、教授型授業から子ども主体の課題解決型授業への改善を図る。 		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修：授業力向上を企図した集合研修を実施するとともに、退職したベテラン教員等を小学校に派遣して、新規採用後3年目、4年目の教員の訪問研修を行う。 ・教員ネットワーク“土曜塾”：土曜日に教育研究所を開放して、市内教員の研修・研究の場を提供するとともに、教育課題の様々な相談に応じ、教育活動全般の指導、支援を行う。 ・退職校長等で組織する客員指導主事による学校の校内研修の活性化・充実を図る。 ・学び合いの授業づくりのため学識経験者を活用して、現場に密着した校内研修・指導支援を行う。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上研修訪問研修の受講者アンケートでは79%が「とても価値がある研修である」と回答があり、「価値があった」という回答とを合わせると100%となっている。研修指導員の指導力の高さにより、満足度が高い研修を実施することができた。 ・教員ネットワーク“土曜塾”：土曜日を利用して、先進校視察を実施し、その成果を普及できた。 ・客員指導主事についても、校内研修の支援として効果が高い。 ・学級集団づくり意識調査QUを活用して学び合いの授業づくりの土台づくりをし、研究指定校による公開授業、協議会等をのべ6回開催し、全体研修会とし佐藤学教授を講師として招へいし研究会を開催し130人の参加者を得た。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・退職校長等の研修指導員による訪問研修回数は、一人あたり年間のべ約40回である。研修指導員の人数の増加と人材の確保が必要である。 ・全中学校において授業改善に向けた取り組みをすすめるために、さらなる働きかけが必要となり、そのために校長連絡協議会等をもつ必要がある。 		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	情報教育ネットワーク設備整備事業(教育研究所)	34,113千円	教育研究所	A
事業の目的	教育情報ネットワーク「きいねっと」の拠点としての役割を担い、市立小・中学校等のネットワークの管理を行うことにより、情報通信ネットワークの活用を図る。小・中学校の児童生徒及び教職員がインターネット、電子メール等を利用し、情報の収集、蓄積、共有、発信の能力を身に付けられる環境を提供する。			
事業の概要	教育情報ネットワーク「きいねっと」の管理運用。市内小・中学校等における情報活用のための環境の提供。			
成果	教育情報ネットワーク「きいねっと」の拠点としての役割を担い、市立全小・中学校等における情報通信ネットワークの活用を図ると共に、システムに不具合が生じた場合の対応策にも備え、システム安定稼働のための円滑な維持管理ができた。			
課題	情報通信ネットワークを利用した教育の情報化は、校務及び教育の両面で今後さらに進むと考えられる。それに伴い次期機器更新に向けて、和歌山市教育情報ネットワークの拠点として、変化に柔軟に対応できるシステムの運用・管理方法の調査・検討を進める必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	教育課題調査研究事業	980千円	学校教育課	A
事業の目的	幼稚園及び小・中学校における学習指導、保育展開等の改善充実に資するとともに、和歌山市の子どもの確かな学力、豊かな心、たくましい身体の育成を企図する。			
事業の概要	幼稚園、小学校、中学校における教科等教育の在り方及び指導方法等について研究を行う。研究内容は「教科領域に係る研究指定」と「新しい教育課題に対応する研究」とする。学校主体で研究実践を推進し、必要に応じて和歌山市教育委員会が指導、助言を行う。			
成果	研究指定校は、発表会、公開授業、研修会の開催など他校との共有を図る等の成果が見られた。			
課題	今後も学習指導、保育展開等の改善に向け一層の充実を図りたい。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	① 学校の教育力の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
児童生徒安全推進事業		1,416千円	学校教育課
事業の目的	児童・生徒の保護者に対し、不審者情報や学校からの連絡を、携帯電話メールを使って迅速に情報を伝える。		
事業の概要	年度当初に制度を周知し、児童・生徒の保護者が事前に登録し、学校や市民の方から不審者等の情報が入った場合、必要に応じて携帯電話メールを使って直接保護者に情報伝達する。 また、新入学児童全員に防犯ブザーを配付した。		
成果	地域や家庭での見守り活動に役立てるため、不審者の目撃情報等を、保護者や関係機関に素早く発信し、児童生徒の事件・事故の被害を防ぎ、安全確保を図ることができた。また、不審者情報等のみならず、他の情報を提供していくことも可能であり、各校とも頻繁に活用している。		
課題	不審者等による児童生徒への声掛け件数等が増加しており、登下校時や帰宅後の安全確保が強く求められている。しかし、発生時刻から時間が経過して市教委に情報が届き、発信が遅れてしまったり、発信した情報の信憑性が疑わしいものもあった。いかに、正確な情報を、迅速に発信するかが今後の課題である。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	② 幼児教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
幼保一元化対策事業		10,598千円	教職員課
事業の目的	幼保一元化への移行に向けて、幼児教育・保育の充実を図ることを目的とする。		
事業の概要	モデル園を指定し、教育課程終了後のあずかり保育を実施するため、幼稚園教諭免許を有する非常勤職員（以下、「保育補助員」という。）の配置等を行う。		
成果	4人の保育補助員を配置。保育補助員が、教育課程終了後の保育機能部分を担当することで、地域における保育が必要な子どもがいる家庭を支援できた。		
課題	認定こども園を開園する場合の教職員体制と併せて、事業の今後の方向性を検討していかなければならない。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	② 幼児教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
3歳児保育等事業		50,136千円	教職員課	B
事業の目的	<p>多人数の園や学級、障害のある園児等が在籍する公立幼稚園の教育環境の整備及び保育の質の改善を図る。</p>			
事業の概要	<p>20人を超える3歳児学級、30人を超える4・5歳児学級、障害のある園児が多く在籍する園に幼稚園教諭免許を有する非常勤職員（以下、「保育補助員」という。）を配置し、担任とともに複数体制で指導を行う。</p>			
成果	<p>25人の保育補助員を配置。保育補助員を通年で計画的に配置することにより、各園の実情に応じた教育内容の充実・あずかり保育等、地域のニーズを捉えた魅力ある幼稚園作りに寄与した。</p>			
課題	<p>障害があると思われる園児が、年々、増加傾向にあり、教育現場における特別支援教育の充実が求められる状況も続いている中、障害のある園児や学級の補助として保育補助員を要望する園も増えてきている。今後も、要望と実態に即した職員の配置が必要である。</p>			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
環境教育推進事業		14,975千円	学校教育課	A
事業の目的	<p>和歌山県内の小中学生を対象に、森林や林業にふれる機会をつくり、環境問題への関心を高め、森林を守り育てる意識をはぐくむ</p>			
事業の概要	<p>森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験活動に備えた予習としての事前事業 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習</p>			
成果	<p>児童は、事前学習により環境保全への関心を高め、森林体験で間伐などを体験し、森林で働く人々の思いを実感している</p>			
課題	<p>今後も環境教育推進のため、本事業のより一層の充実を図りたい。</p>			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	職場体験事業	413千円	学校教育課	A
事業の目的	生徒に望ましい勤労観、職業観を身に付けさせ自分の生き方を考え、将来社会人・職業人として自立する力を身につけさせる。			
事業の概要	事業所での職場体験により、勤労の尊さや創造することの喜びの体得、望ましい職業観・勤労観の育成などに加えて、実際的な知識や技術の習得を行い、学校での学習と職業との関係についての理解を深める。なお、職場体験での事故に備えて、生徒に損害賠償保険をかけている。			
成果	職業や仕事を暫定的な窓口としながら、将来進む可能性のある職業を試行的に見学・体験し、職業や実社会への視野を広げることによって、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることによって、社会の様々なことに気づく機会となっている。			
課題	一過性の体験活動に終わることなく、発達段階に応じたキャリア教育の中で系統的に世の中の仕組みを理解していく教育活動が課題である。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	小中学校科学作品等各種作品展開催事業	853千円	学校教育課	A
事業の目的	児童生徒が参加する作品展の活動を支援し、各教科教育の振興を図る・			
事業の概要	図工美術、家庭科作品、書写作品、科学作品、読書感想文、音楽発表会などの機会に優れた作品を展示・公開・発表し、優秀作品には表彰状を贈呈する。			
成果	様々な分野での発表の機会を確保することで、児童生徒の制作表現意欲を高めることができるとともに、教育の成果について保護者にも広めることができている。			
課題	より多くの学校に参加を促すとともに、優れた作品をモデルとして示すことができるよう、運営する各研究会に働きかける。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
教育相談活動事業（相談窓口の一元化）		367千円	子ども支援センター	B
事業の目的	18歳までの子どもや保護者、教職員を対象に、教育や養育に関する相談に応じ、問題の解決に向け支援をおこなう。			
事業の概要	センターにおいて、来所や電話による相談に応じ適切な支援をおこなう。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒・保護者・教職員に対する相談に応じる。			
成果	内容に応じ適切な相談体制をとり、学校や福祉等の関係機関との連携を図り、心身ともに健康な児童生徒の育成に貢献した。			
課題	子どもを取り巻く状況は複雑で多岐にわたってきている。関係機関との連携をさらに深めながら、支援方法の見立てを行う必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
帰国子女等受入れ対策事業（日本語指導の援助）		118千円	子ども支援センター	B
事業の目的	帰国子女や外国籍等で日本語理解が難しい児童生徒に対して、学校での日常生活および学習活動を支援し、充実した学校生活を過ごせるようにする。			
事業の概要	要請のあった学校については、日本語指導ボランティアを学校に派遣し、対象児童生徒に日本語指導をおこなう。			
成果	子どもの母語に応じたボランティアを派遣し、授業における通訳、個別指導、級友とのコミュニケーションの支援等をおこない、日本語理解における支援と子どもの心の安定につなげることができた。			
課題	日本語を理解するには時間を要するため、長期にわたり系統だった支援が必要である。また、日本語指導における教材・教具等を整える必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
学力向上支援事業		10,368千円	学校教育課
事業の目的	児童生徒の学力向上のために、地域で行われている学習会に講師（巡回指導員）を派遣して、学校と連携をとりながら学習指導を行う。		
事業の概要	10地区において、小・中学生を対象に実施する。小学生は算数・国語を中心に学習方法や基礎知識の習得を、中学生は英語・数学を中心に基礎学力の向上を目指す。		
成果	小・中学生を対象に、算数、数学、国語、英語等を中心に基礎学力向上のための学習支援を行い、学習意欲を高めるとともに学力向上に努めた。		
課題	巡回指導員の指導力向上に向けての研修を充実させるとともに、効果的な指導内容の研究をさらに進めたい。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
英語教育推進事業		1,420千円	学校教育課
事業の目的	小学校での外国語活動の充実と中学校での言語活動の充実のため、ネイティブスピーカーとの実際のコミュニケーションの機会を設けることが目的である。		
事業の概要	ALT（外国語指導助手）7名を和歌山市内の全ての小中学校、幼稚園に派遣し、コミュニケーションを重視した英語教育の充実を図っている。		
成果	児童生徒のコミュニケーション能力の向上のために、ALTとの直接的なコミュニケーションにより、楽しく学びながら、「聞いてわかった」「話して通じた」という成功体験の積み上げができた。		
課題	ALTの人数が少なく、他市と比較しても半分以下の日数しか学校に派遣できていない現状である。英語教育の充実に向け、ALTの増員が必要であると思われる。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
中学校国際交流助成事業（姉妹都市、友好都市との交流）		365千円	学校教育課
事業の目的	和歌山市の中学生・高校生が、外国の生徒と交流することで、広い国際的視野を養う。		
事業の概要	和歌山市とリッチモンド市の中・高校生が相互訪問し、学校交流やホームステイを行い、国際親善に努める。本市の中・高生が訪問するのは、隔年である。		
成果	カナダ・リッチモンド市との姉妹都市交流は40年を越え、学生同士の定期的な交流も定着している。27年度はリッチモンドより30名の生徒が来和し、友好を深めることができた。		
課題	人的交流については、ホームステイ受け入れ先の開拓や学校訪問のプログラムの充実があげられる。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
情報教育推進事業		15,754千円	教育研究所
事業の目的	<p>情報教育推進校の子どものICT活用能力の育成と教員のICTを活用した授業改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より分かる授業により子どもの学力を向上 ・ICT機器を活用して思考力、判断力、表現力(考え、まとめ、伝える力)を育成 ・ICT機器を活用した授業方法の工夫・改善の研究、カリキュラムの作成 		
事業の概要	「フューチャースクール」「学びのイノベーション事業」の委託事業の「研究実証校」として指定した和歌山市立城東中学校において、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を実現するために、生徒1人1台の情報端末、デジタル教科書・教材等のICTを活用し、生徒の学力向上及び教員の指導方法の改善に関する総合的な実証研究を実施する。		
成果	生徒1人1台の情報端末の活用により、個々の学習ペースに合った内容を選択できたり、興味・関心をもったことを自主的に調べたりできるようになり、積極的に学習に取り組む生徒が増えた。また、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、授業形態に共同的な学習スタイルを取り入れる教員が増え、成果がみられた。		
課題	電子黒板や、生徒1人1台の情報端末の、より効果的な活用場面を工夫するとともに教員の指導方法の改善をより一層進め、その成果を他校の教員と共有することが重要である。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
就学援助費交付事業（経済的理由による就学困難者への援助）	117,563千円	学校教育課	B
事業の目的	経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対して、保護者負担の軽減を図る。		
事業の概要	和歌山市立小・中学校に在学する児童生徒、和歌山市に住所を有し和歌山大学教育学部附属小・中学校、県立向陽中学校又は県立桐蔭中学校に在学する児童生徒の保護者について、児童扶養手当全部受給者又は世帯の総所得が認定基準額以下の場合、学用品費、修学旅行費等の一部を支給する。 事務の流れ：年度当初に全児童・生徒の保護者に制度を周知し、随時申請を受け付ける。方法は、学校を通じて、申請・交付を実施する。		
成果	学用品費、修学旅行費等の就学援助費を支給		
課題	他の中核市と比較すると、支給単価、認定基準ともに低い水準の状態にあるため、国基準並みに充実させたい。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
遠距離通学児童生徒に対する助成事業	2,743千円	学校教育課	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学となる生徒の保護者の経済的負担の軽減を図る。 ・毛見トンネル以南の児童生徒の通学の安全確保を図る。 		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市滝畑に住所を有する生徒が、通学のため利用する交通機関の運賃相当額（半年定期2回分）を交付する。 ・毛見トンネル以南の児童生徒の就学を海南市に委託する。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・通学のため利用する交通機関の旅客運賃相当額を交付することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。 ・毛見トンネル以南の児童生徒の就学を海南市に委託することで、通学の安全確保を図ることができた。 		
課題	毛見トンネル以南の児童生徒は減少しており、和歌山市の小中学校を希望する児童生徒がいる現状を踏まえ、見直しを含め検討していきたい。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
小・中学校改築事業		925,229千円	教育施設課
事業の目的	各小・中学校の施設をより安全かつ快適なものにする。		
事業の概要	1. 耐震化事業として、非構造部材の耐震化を進めるため、屋内運動場吊り天井の撤去工事を実施する。 2. 教育環境の整備事業の一環として、中学校の空調機設置工事を平成26年度から実施する。 3. 学校施設整備の促進事業として、平成26年8月から小学校2校の浄水型プール改築工事を実施する。		
成果	平成27年度に小中学校の屋内運動場吊り天井撤去工事が完了。また、中学校2年生の空調設備については、平成28年2月国補正にて2年生分の補助金が付き、3月に契約完了し、平成28年7月完備。小学校2校の浄水型プール改築工事は、平成27年6月に外構工事を完了。各小中学校施設の環境整備が図られた。		
課題	老朽化した施設を把握し、計画的な更新計画の策定と補助金等財源の確保が必要である。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
学校適正規模化推進事業		509,890千円	教育政策課
事業の目的	児童生徒の増減により、学校規模の適正化が必要な学校を対象に、適切な教育環境のもと、学校教育が行われるよう学校規模を整える。 また、平成29年4月に伏虎中学区において、小中一貫校を設置する。		
事業の概要	市立学校の適正規模化の検討対象について、現状把握と今後の学校規模の推移予測や学校・地域等関係者との協議等をとおして、総合的な観点から適正規模化の方向性を調査・検討する。 伏虎中学校区適正規模化に係る小中一貫校設置事業の推進。		
成果	伏虎義務教育学校の平成29年4月開校に向け、新設校舎建設工事の実施や小中一貫校の教育課程の策定、国庫補助の申請、制服、校章の選定に向けての調査など、伏虎中学校区の3小学校・1中学校の円滑な統合に向け取組を進めた。		
課題	市内小中学校の適正規模化に向け、和歌山市立学校適正規模化の方針や国の適正規模化の手引きに基づき、小規模化が進む学校のあり方について、継続して検討を進める。		

分野別目標 5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
特別支援教育児童生徒指導事業（障害のある幼児児童生徒への教育）		1,330千円	学校教育課
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある幼児・児童・生徒の適正な就学指導や相談活動を行い、個に適した就学先を教育支援委員会にて判定する。 ・特別支援学級に入級している児童生徒が、精神科医の診断を受けることにより、個々の教育的ニーズをより具体的につかみ、個のニーズに応じた指導を行う。 	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援委員会委員が、幼稚園、保育所、学校及び家庭を訪問するとともに、医療機関や各関係機関等との連携を図りながら、子どもの生活面・学習面・社会性や対人関係といった状況や実態を把握することで、教育支援委員会にて総合的な判断を行い、適正な就学先を判定する。 ・精神科医が学校や医院にて子どもを観察し、適切な助言を行う。 	
成果		教育支援委員会での障害のある幼児・児童・生徒の適正な就学先の判定をもとに、保護者との合意形成をする中で、個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮についても検討していくことができた。	
課題		就学指導の申込のあった幼児・児童・生徒に対して、校園訪問や家庭訪問、また関係機関との情報提供等を教育支援委員会委員が担当して行っている。申込数が増えてくるにともない、支援委員会委員を増員する、専門性のある退職者に委嘱を依頼する、あるいは教育支援委員会の審議のあり方を検討する、といった円滑で適正な就学指導を実施していく。	

分野別目標 5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
特別支援教育支援員等派遣事業		11,011千円	学校教育課
事業の目的		特別支援教育支援員、介助員は、発達障害や肢体不自由のある児童生徒が在籍する学級において、児童生徒や教員（担任）を支援することにより学級運営の円滑化を図る。特別支援教育専門員が学校を巡回し、学校や特別支援教育支援員に対して専門的な指導助言を行うことで、個に合った個別の支援のあり方や校内での支援体制づくりの整備を進める。	
事業の概要		<p>学校長からの配置要望を受け、特別支援教育支援員、介助員を適切に配置する。支援員、介助員には、毎月支援（介助）記録を提出してもらうとともに、指導主事による学校訪問を行い、実態把握や指導支援を行う。</p> <p>特別支援教育専門員が巡回訪問し、支援の必要な児童生徒への効果的な指導支援の手立てを専門的な見地から助言指導をしてもらうことで、個別支援の充実、教育環境の改善を図る。</p>	
成果		立ち歩きや飛び出し、粗暴な言動等により落ち着いて学習に集中できない子ども、また、通常の学級における発達障害等で困り感を持った子どもへの個別対応を丁寧にするすることで、学習意欲や気持ちの切り替えにつながった。	
課題		通常の学級における個別の学習指導や生活指導、別室での取り出し指導を行い、落ち着いた教育環境づくりを推進するためには、特別支援教育支援員の人数増員が必要である。	

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	特別支援教育就学奨励費交付事業	8,093千円	学校教育課
	担当課評価	B	
事業の目的	特別支援学級在籍児童生徒及び特別支援学校在籍児童生徒の就学の特殊事情にかんがみ、就学に係る保護者負担の軽減を図る。		
事業の概要	特別支援学級在籍児童生徒について、世帯の収入額が需要額（需要額とは厚生労働大臣が定める基準額）の2.5倍未満となる者に、学用品費、給食費及び修学旅行費の経費の一部を支給する。また、和歌山市に住所を有する和歌山県立及び和歌山大学附属の特別支援学校在籍児童生徒に交付金を支給する。		
成果	特別新学級在籍児童生徒に学用品費、給食費及び修学旅行費の経費の一部を支給。また、和歌山市に住所を有する和歌山県立及び和歌山大学附属の特別支援学校在籍児童生徒に交付金を支給。		
課題	他の中核市と比較すると、支給単価、認定基準ともに低い水準の状態にあるため、国基準並みに充実させたい。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	学校支援事業	1,712千円	学校教育課
	担当課評価	A	
事業の目的	学校単独では解決が困難な諸問題を解決するために、学校問題サポートチームを活用する。		
事業の概要	サポートチームから対応についての助言を受けて、学校をめぐる諸問題を解決する。		
成果	弁護士や心理士等が、学校からの要請に応じて緊急対応し、適切な初期対応により早期解決するケースや法的に対応が求められるケースで、弁護士の的確なアドバイスが得られた。		
課題	一つのケースを多面的に捉え、SSWや心理士、警察OBや教員OBなど複数の視点からサポートしていくことによって、問題の早期解決を図りたいと考える。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	③ 小・中学校教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
教育調査研究事業 (地域先達活用事業)		616千円	教育研究所
事業の目的	地域の人が学校にいる環境を創り、学校・地域先達の相互充足感による教育効果・学力向上を図る。		
事業の概要	小学校数校を研究校に指定し、地域先達の方が学校で教育活動を支援していただく環境を創る。子どもが地域の先達とつながることにより、地域への愛情を深め、帰属意識・自尊感情を高め、意欲的に学ぶ態度を身につけることを期する。		
成果	学校と地域の距離が近くなったと、地域先達と学校の双方が感じることができ、子どもたちにとっては学校での生活や学習において、地域先達とかかわることが楽しみの一つとなっている。		
課題	平成28年度は事業を拡充し、モデル校を増やし、さらに実践検証を重ねる必要がある。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
各種検診等学校保健事業（心臓病検診、結核検診、尿検査など）		27,435千円	保健給食管理課
事業の目的	各学校（園）の児童、生徒、教職員の健康管理及び保持増進のため、各種検診並びに学校保健振興のための諸事業を行う。		
事業の概要	心臓病、脊柱側弯、ぎょう虫等の各種検診の実施。		
成果	健康診断を実施し、児童生徒の健康状態を把握。保健管理や健康教育等を通して疾病の予防及び早期発見に努めることができた。		
課題	1次、2次検診の未受診者がごくわずかであるが見られるため、各学校へ受診勧奨を行う必要がある。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
学校環境衛生維持管理事業（浄化槽の清掃、プール水質検査など）		47,469千円	保健給食管理課	A
事業の目的	児童、生徒等の健康保持増進のため各学校（園）の環境衛生設備の維持管理及び適正な処理を行い、学校環境衛生の保全を図る。			
事業の概要	浄化槽の清掃、保守点検、水質検査、貯水槽の清掃を実施する。			
成果	子どもたちの健康を保持増進し、学習能力の向上を図るため、プールの水質検査、貯水槽清掃及び浄化槽保守点検等、安全かつ快適な学習環境を作り上げることができた。			
課題	児童生徒の安心、安全な学校環境衛生の維持管理を継続するために施設の老朽化に伴う施設管理部門と今以上に連携を図ることが必要である。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
学校給食管理運営事業（安全・安心な学校給食の実施）		349,342千円	保健給食管理課	A
事業の目的	成長期にある児童に栄養バランスのとれた食事を提供し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進、体位の向上を図る。			
事業の概要	学校給食の調理業務等の民間委託を行い、円滑な給食実施のために、設備等の適正管理に努める。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、児童の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	安全、安心な給食の提供に努め、なお、地産地消に向け、できる限り和歌山産食材の調達を図っているが、流通量等の関係から十分に進まない。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
学校給食管理運営事業（中学校）		67,226千円	保健給食管理課	B
事業の目的	成長期にある生徒に栄養バランスのとれた食事を提供し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進、体位の向上を図る。			
事業の概要	民間委託による選択制デリバリ方式の給食を実施する。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、生徒の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	喫食率が当初の目標に達していないため、各学校長への呼びかけや試食会の開催により、生徒の喫食率向上に繋げたい。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
第一・第二共同調理場施設管理運営事業（安全・安心な学校給食の実施）		250,281千円	保健給食管理課	A
事業の目的	和歌山市立小学校及び幼稚園における給食の調理等に関する業務を共同処理するため、第一・第二共同調理場の給食運営を行う。			
事業の概要	共同調理場の調理配送等業務の民間委託を行い、円滑な給食実施のために設備等の適正管理に努める。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、児童の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	第二共同調理場の老朽化が進んでいるため、今後は建替え等を含めた整備が必要である。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	④ 健康教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
食育推進事業（研究発表会の実施）		42千円	保健給食管理課	B
事業の目的	健康や食に関心を持たせ、児童を対象に正しい食事の取り方や望ましい食習慣を身につけさせるよう、学校給食における食育を推進する。			
事業の概要	「食に関心をもち、健康について考えられる子の育成」を研究主題とし、2月頃公募により研究指定校の選定を行い、翌年度8月頃研究指定校の教員に対し研究講師が講習を行い、研究指定校は他校の教員を対象に研究発表会を行う。それに伴う、研究講師への報償金と研究会資料の印刷製本費を支給する。			
成果	文部科学省「子どもの健康を育む食育推進事業」を受託し、学校・家庭・地域が連携して取り組む食育の在り方の研究を進め、児童の食に関する知識の習得に寄与することができた。			
課題	研究指定校の見直しの検討が必要である。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	1 学校教育の充実	施策	⑤ 高校教育・高等教育の充実	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
普通科充実事業		2,212千円	市立和歌山高校	B
事業の目的	生徒の学力向上を図り、進路の実現と国公立大学の進学を目指す。			
事業の概要	大学進学に向けた受験指導を日常的に行っている。 進学予備校等の講師を招き、土曜日や長期休業中に進学特別講座を実施している。 1年生、2年生に大学見学会を実施すると共に保護者対象の進路講演会等を実施し、早い段階で進路についての明確な対策と目標を持たせる。			
成果	センター試験を受験して国公立大学や私立大学への進学者を毎年出せるようになっている。 進学説明会や講演会等実施することで、保護者も大学進学への意識理解が向上している。 大学見学することにより、生徒自身の進学に対する意欲が向上している。			
課題	センター試験の受験者数を更に増やし、より確実な学力をつけた上で大学進学者の増加を図ることが課題であり、国公立、私立大学への合格実績を伸ばすことが次世代へのPRにもなるのでセンター試験の利用を進める。 大学見学後の指導を強化し、継続的な指導が重要であり、進学説明会では保護者の参加人数を増やす工夫が必要である。進学特別講座のより一層の充実と改善を目指す。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	⑤ 高校教育・高等教育の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	学校運営事業 (高等学校)	71,615千円	市立和歌山高校
	担当課評価	B	
事業の目的	よりよい教育環境の構築及び生徒の学力増進を図る。		
事業の概要	人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成を目指し、生徒指導の充実、学習指導の充実、環境整備の充実を図る。		
成果	大学進学希望者の98.8%の達成率(平成27年度) 就職希望者の100%の達成(平成27年度)		
課題	大学進学については、国公立並びに有名私立大学のさらなる合格率の向上を図る。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	1 学校教育の充実	施策	⑤ 高校教育・高等教育の充実
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	外国人講師・国際交流事業	4,608千円	市立和歌山高校
	担当課評価	B	
事業の目的	外国語指導助手が常駐することにより、日本人教師では指導困難な異文化理解等に成果を上げると共に各種検定の為、面接指導及びヒアリング指導等を行うための事業。		
事業の概要	生徒の国際化並びに英会話力の向上を図るために外国語指導助手が常駐する。年3回開催される日本英語検定(ステップ)各級の一次試験のヒアリング指導や二次試験のジャッジでもある外国語指導助手が直接面接担当を行うなど有効性が高く。また、年2回ある全国商業高等学校協会のヒアリング指導や、毎年市主催の中学生スピーチコンテスト審査委員も勤める外国語指導助手を活用し生徒のグローバル化を図る。姉妹校交流の際の対応や通訳等の補助等も外国語指導助手が行う。		
成果	英語部を熱心に指導した結果、平成25年度は全商英語スピーチコンテスト県大会にて準優勝、平成26年度は県大会で優勝し、全国大会に出場した。平成27年度は県大会で優勝し、全国大会でベスト12となり決勝まで進んだ。		
課題	毎年のスピーチコンテスト県大会においてを常勝とし、全国大会上位を目指す。普段の授業の中でリスニング力、コミュニケーション力を身につけさせ、総合的な英語力向上を目指し、英語検定の合格率を上げると共に大学進学を有利に展開させることが今後の課題である。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	2 青少年の健全育成	施策	① 青少年の健全育成	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
各地区青年団体支援事業		1,029千円	青少年課	B
事業の目的	各地区青年団体支援事業は、ボーイスカウト等の青少年の育成を目的とした団体を育成・補助することで、和歌山市の青少年の健全育成及び青少年教育を発展させることを目的とする。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイスカウト和歌山地区協議会 ・ガールスカウト和歌山地区協議会 ・和歌山市子ども劇場・子どもNPO連絡会 ・和歌山市青年団体協議会 上記、各団体の主催する事業に対する支援及び補助			
成果	青少年活動を行っている各団体への支援及び補助により、青少年の健全育成及び青少年教育の発展に効果をあげた。			
課題	子どもの減少や地域社会の人間関係の希薄化等により団体規模が小さくなっている。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	2 青少年の健全育成	施策	① 青少年の健全育成	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
少年自然の家管理・運営事業		35,320千円	少年自然の家	A
事業の目的	豊かな自然環境の中で、観察や探究など自然に親しむ活動やキャンプ等の野外活動を通し豊かな情操や創造性を養うとともに、集団生活を通じて学校や家庭では会得しがたい自立、協同、友愛、奉仕等の尊さを体験学習し、良き青年となるための一端をになうことを目的とする。			
事業の概要	利用者が安心・安全に活動できるよう設備を整備し、施設の維持管理を行う。また、利用団体に様々な活動指導や生活指導等の支援を行うとともに、市内の小中学生及びその家族を対象とした主催事業を実施する。			
成果	利用者が安心・安全に活動できるよう設備を整備し、施設の維持管理を実施した。また、利用団体に様々な活動指導や生活指導等の支援を行うとともに、市内の小中学生及びその家族を対象とした主催事業を実施した。			
課題	塩害による鉄筋の腐食等、老朽化が進み、施設の全面的な建て替えを実施することとなり、基本設計を実施した。 平成28年8月、少年自然の家の廃止が決定となり、新たに「青少年国際交流センター(仮称)」として、平成30年8月オープンを目指す。管理運営面での検討を要す。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	2 青少年の健全育成	施策	① 青少年の健全育成	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
少年センター事業（街頭補導、相談、環境改善など）		6,216千円	少年センター	B
事業の目的	青少年を非行から守ることを目的として、少年非行の原因を探り、それを除去して本来の姿に立ち直らせるように努める。そのため県・市・学校・警察・和歌山市少年補導委員会等、各関係機関の協力を得て非行防止の活動に努めている。			
事業の概要	青少年非行の早期発見・早期補導及び少年相談 1. 街頭補導活動 2. 啓発活動 3. 青少年非行に係る相談事務 4. 各関係機関、団体等との連絡・調整・連携 5. 環境浄化活動 6. 調査研究活動			
成果	街頭啓発活動を積極的に行い、青少年非行を未然に防止している。また、少年相談の充実により、青少年の立ち直りに寄与している。各関係機関、団体との密な連携により青少年問題の早期解決につながっている。			
課題	インターネット・スマートフォンの低年齢層への急速な普及に伴い、大人が子どもの問題行動を把握しにくくなっている。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
学校図書充実事業（小・中学校）		25,513千円	教育政策課	A
事業の目的	学校図書を整備し、児童・生徒の利用に供することによって、学校教育課程の展開に寄与するとともに、児童・生徒の健全な教養を育成することを目的とする。			
事業の概要	事業の目的を達成するために、各学校の規模を勘案し図書購入費を当課から配分し、各学校において適宜、必要図書の選定を行い予算執行を行っている。			
成果	文部科学省が設定する「学校図書館図書標準」の標準冊数に対する蔵書充足率は、小学校で117.7%、中学校で126.9%を達成することができた。（決算額：小学校16,786千円、中学校8,727千円）			
課題	各小中学校における図書の整備率について、全体目標値については達成しているものの、学校により整備率に開きがあるため、予算配分の見直しにより、達成率の低い学校の底上げが必要である。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	生涯学習推進事業（生涯学習推進協議会、生涯学習推進員、生涯学習人材バンク登録など）	1,101千円	生涯学習課	A
事業の目的	生涯学習の総合的かつ効果的な推進を図るため協議会を設置し、推進方策やその他生涯学習に対して協議する。			
事業の概要	生涯学習の総合的かつ効果的な推進を図る。 ・生涯学習推進協議会の開催 ・生涯学習推進員の研修会開催 ・生涯学習情報の収集、提供 ・生涯学習セミナーの開催			
成果	生涯学習推進協議会、生涯学習推進員研修会等を開催することができ、また生涯学習人材バンク登録者数も増え生涯学習の推進を図ることができた。			
課題	市民の主体的な学習意欲に応える生涯学習の支援の充実が必要になっている。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	社会教育運営事業	2,620千円	生涯学習課	A
事業の目的	・社会教育委員により和歌山市の社会教育の在り方を審議、市民にとってのより良い社会教育を構築する。 ・社会教育指導員による市民集会等での指導により、人権問題等の改善を図る。 ・教育財産として所有する打越山の維持管理。			
事業の概要	・社会教育委員定例会議を開催する。 ・社会教育指導員を市民集会等に派遣する。 ・打越山の草刈等を実施する。			
成果	・社会教育委員定例会議を3回開催し、年間事業計画の審議、社会教育団体への補助金の審議、各種研修会への参加、及び社会教育指導員による指導等が行なわれた。 ・打越山の草刈を実施した。			
課題	・打越山について、教育施設としての目的がないとの指摘を踏まえ、市長部局と協議をし、「用途廃止」の手続きを得て、市長部局への移管を行い、自然公園として、また地域の憩いの場、緊急時の一時避難場所として活用できればと考えている。 ・打越山は、津波避難目標地点に指定されている。（和歌山市防災マップ）			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	公民館管理事業・公民館運営委託事業・公民館活動事業(公民館学級・成人祝賀式事業・各種大会事業)	38,221千円	生涯学習課(中央公民館)	A
事業の目的	公民館学級は、生涯学習を通じて心身の健全な安定を図ること。成人式祝賀式行事は、新成人に大人への自覚を促すとともに、その前途を祝福する。各種大会事業については、公民館長の研修などにより、最新の公民館活動情報に接することで、より充実した公民館活動を実施する。			
事業の概要	市民の幅広い学習要求に基づき、学習を通じて豊かな人間性と一般教養を学習し、市民の高揚に役立つ講座の実施。成人式祝賀式典の開催。			
成果	各種学級等の開設により市民の学習要望にこたえ、継続的学習への援助が図れた。公民館振興のための事業を開催し、地域活動の活性化の支援が図れた。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動を広く周知するための講座の検討を行なう。 ・成人式式典については、魅力ある式典を検討し、参加率の向上を図る。 			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	図書館施設管理事業	97,735千円	市民図書館	B
事業の目的	図書館整備を的確に維持管理し、図書館利用者に安全・安心かつ快適な環境を提供する。			
事業の概要	図書サービスを効果的・スピーディに行うための図書館システムを構築・運用し、現代の高度情報化社会に対応しながら市民の高度な情報ニーズに応えるべく情報を収集・発信していく。警備事業を委託することにより安全を確保し、清掃、設備管理、電話保守等を委託することで快適な環境を保つ。			
成果	図書館システムの構築・運用により、Webサービスの展開が充実し、予約件数も増え、利用者の利便性の向上が図れた。			
課題	施設・設備が老朽化し、徐々に本来の機能が十分に果たせなくなるといった状況のもと、祝日開館に伴い開館日数が増え、今後とも維持管理経費の増加は避けられないが、改修・修繕箇所の見直しと優先順位を検討する。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	婦人団体育成事業	2,195千円	生涯学習課	A
事業の目的	社会の変動に対し活動することのできる女性団体を育成し、明るく住みよい社会の実現を目指して、地域での活動を進める。			
事業の概要	和歌山市婦人団体連絡協議会に婦人団体育成事業を委託。 ・各種研修会の実施 ・婦人大会の開催 ・婦人総合体育大会の開催 ・地域別市民運動実践活動の実施 ・女性学級の実施等			
成果	和歌山市婦人団体連絡協議会に育成事業を委託し、研修会や女性学級等様々な活動を通してリーダーを育成し、女性の資質や能力の向上に努めることができた。			
課題	婦人団体が高齢化してきている。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	完全学校週5日制対策事業	11,020千円	生涯学習課	A
事業の目的	完全学校週5日制に伴い、原則長期休業を除く土曜日の午前中、地域で子どもを育て「生きる力」育成のため、スポーツ体験や文化体験などの豊かな体験活動と補充・発展学習の場を提供する。			
事業の概要	各小学校区子どもセンターを当該小学校に置き、保護者、地域各種団体の協力を得て、事務局と運営委員会を設置する。休業土曜日を利用して、子どもたちに様々な活動や体験をする機会を与える。また、希望する子どもセンターには、学力向上プログラムとして土曜教室を開設し、年間20日程度、非常勤講師を派遣し、児童を指導する。			
成果	子どもセンター活動（体験活動、伝統文化、学習等）の実施回数が833回、延べ53,745人の参加により様々な活動、体験をする機会を提供することができた。			
課題	小学校区子どもセンターにより運営面を担う人材の確保の難しさがある。また、運営に関わる大人が成果に対して「参加者が思うように集まらない」「活動がマンネリで新しいプランがない」と自信をなくしている面も見受けられる。人的、金銭的、時間的等に低コストな取組事例を調査研究、開発したものを各子どもセンターで共有し、地域、保護者を巻き込んだ取組とする。情報共有の場として運営委員長会議を活用すると共に、機会を捉え各子どもセンター関係者と情報交換を行う。大人や子どもの地域ボランティア等を発掘し、積極的に活用するなど、それぞれの地域の実情に応じて取組の工夫をすることは可能であると考えられる。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	和歌山市教育・学びあいの日制定事業	108千円	教育政策課 学校教育課 生涯学習課	A
事業の目的	教育に対する市民の意識と関心を高めるとともに、学校、家庭及び地域が連携し、子どもが輝き、文化が薫る教育のまちの実現に向け、共に学びあい、市民全体で教育に関する取り組みを推進することを目的とする。			
事業の概要	毎年、11月を「和歌山市教育・学びあい月間」として、学校、教育に関する機関及び団体並びに市民等との連携・協力を得て、さまざまな取り組みを推進するとともに、広く市民への普及を図る。			
成果	教育政策課、学校教育課、生涯学習課の3課により記念講演を開催（11月21日）し、学力向上の機会を提供できた。			
課題	多くの人にきてもらえるように企画・広報等工夫する必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	3 生涯学習の推進	施策	① 生涯学習の推進	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	コミュニティセンター管理運営事業	369,526千円	生涯学習課	A
事業の目的	市民の生涯学習及び地域活動の振興を図るため、多目的ホール、活動室、図書室等の利用により、各人が自発的意思に基づいて学習できるようにする。			
事業の概要	生涯活動の場として各種の講座を開設し、市民の学習活動を支援。文化活動及び地域活動の場として、自主団体に会場を貸出。市民図書館とネットワークを組み、資料の貸し出しなど図書室を運営。			
成果	市民の生涯学習活動の支援に貢献した。 コミュニティセンター（6館）利用者数542,068人 図書室（5館）貸出冊数 647,624冊			
課題	コミュニティセンター10館構想で、未だコミュニティセンターが設置できていないブロックが4箇所ある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
旧中筋家住宅公開事業		6,480千円	文化振興課
事業の目的	国指定重要文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。		
事業の概要	国指定重要旧中筋家住宅の維持管理及び運営		
成果	国指定重要旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行った結果、2,281人の観覧者があり、文化遺産の公開活用を図ることができた。		
課題	周辺の小・中学校への働きかけ等を積極的に行い、地域の歴史教材として活用する必要がある。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
文化財保護事業（文化財保護委員会など）		5,863千円	文化振興課
事業の目的	市内所在の文化遺産を適切に保存整備し、継承、活用を行う。		
事業の概要	文化財保護委員会を開催し、事業について指導を受けるほか、日常業務においても適宜助言を受ける。また、文化財保護委員会に諮問し、和歌山市指定文化財を指定する。 文化財案内板の設置、文化財資料（実物資料・写真資料）の貸出等を行い文化財の活用を図る。		
成果	文化財保護委員会の開催（年1回）をはじめとして、文化財に関する説明板の設置（3件）、文化財資料の貸出（実物資料9件、写真資料27件）文化財の適切な維持管理などを行い、文化財の保護活用を図ることができた。		
課題	文化財案内板の設置を推進し、周知をはかる必要がある。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
国指定文化財修理修復補助事業		93千円	文化振興課	A
事業の目的	国指定文化財（名勝）である養翠園を適正に保存整備する。			
事業の概要	国指定文化財「養翠園」の保存修理への事業補助。 傷みの見られる庭園の園路や建物の養翠亭を修理し、保存活用を図る。			
成果	国指定文化財「養翠園」の園路の修繕に対して補助金を交付し、保存活用を図ることができた。			
課題	養翠園の敷地が広大であるため、長期にわたり事業を継続する必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
緊急発掘調査事業（埋蔵文化財発掘調査など）		215,059千円	文化振興課	A
事業の目的	埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を適正に保護する。			
事業の概要	埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内の土木工事に対処して、確認調査・立会調査を実施、保護資料を作成する。発掘調査事業を企画し、専門団体に委託し、調査を行う。埋蔵文化財発掘資料を管理する。			
成果	遺跡範囲かどうかの確認対応を3,084件について行い、発掘調査が必要な23件について調査を行い、文化財の記録保存を行うことができた。			
課題	東日本大震災以降に地盤改良工事が激増し、それに比例して、遺跡の確認・立ち会い調査、本調査件数が激増している。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
鳴神貝塚整備事業		206千円	文化振興課	B
事業の目的	国指定文化財（史跡）鳴神貝塚を適正に保存・整備する。			
事業の概要	民有地である対象地の公有化を進め、買収完了後に芝張りなどを行い、史跡公園として整備する計画であり、現在は土地購入を継続的に実施している。			
成果	土地購入交渉を継続しつつ、公有地範囲内の除草を実施し維持管理を行った。			
課題	対象の個人所有地の境界が未確定であったり、納税猶予地などがあるため、事業が長期にわたる可能性がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
湊御殿管理運営事業		13,241千円	文化振興課	A
事業の目的	市指定文化財（建造物）湊御殿を適正に維持管理する。			
事業の概要	市指定文化財（建造物）湊御殿の維持管理（庭園・建造物・付属トイレ）。観覧料及び施設使用料の徴収。			
成果	市指定文化財（建造物）湊御殿を一般公開するため管理運営を行った結果、8,043人の観覧者があり、多くの方々に歴史資料を公開することができた。			
課題	養翠園とともに見学してくれる入場者が急増したため、今後、畳やふすまの傷みが進行する可能性が高く、維持管理経費の増大が見込まれる。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
車駕之古址古墳公園管理事業		3,887千円	文化振興課	A
事業の目的	県指定文化財（史跡）車駕之古址古墳公園を適正に維持管理する。			
事業の概要	公園内の草刈り、樹木管理、清掃などの維持管理事業を行う。周辺の小学校5～6年生の社会科授業として現地説明会を開催し、郷土の歴史資料として活用する。学習効果を高めるために古墳上の景石を継続的に古墳外へ移設している。			
成果	草刈り・清掃などの維持管理を行い、古墳公園として小学生を対象とした説明会を実施した。古墳の景石13個を移転し、学習効果を高めることができた。			
課題	管理面では、夏期を中心に、雑草が多く生え、維持費が負担となりつつある。活用面では、地元NPOと共同して事業を企画していく必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	① 文化遺産の保護・継承	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
第一・第二特別展開催事業		7,969千円	博物館	B
事業の目的	特別展にちなむ貴重な資料を全国から借用展示し、郷土和歌山の歴史を紹介することにより市民文化の向上を図る。			
事業の概要	第一特別展は『表千家と紀州徳川家』と題し、表千家同門会和歌山支部の協力を得て、表千家の数々の茶道具を展示し、同家と紀州との関わりを明らかにした。第二特別展は、昨年行なわれた国体を記念して『近代スポーツと国民体育大会一紀の国わかやま国体・わかやま大会への道』と題する展覧会を開催し、和歌山のスポーツ史の一端を紹介した。			
成果	普段見ることの困難な資料などを多数展示できた。茶の湯の文化とスポーツという分野において、和歌山が歩んできた足跡を確認することができ、市民文化の向上に寄与した。第一特別展では実際に茶会を催し好評を得た。			
課題	広報の手段や方法をさらに充実させ、今後展覧会の内容やネーミングなどを工夫することにより、さらに多くの市民らに特別展開催の周知を図っていきたい。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
文化表彰事業		1,696千円	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市の文化向上発展に特に顕著な功績のある個人又は団体に対し、和歌山市文化表彰規程の定めるところにより表彰を行い、更なる文化向上に寄与する。			
事業の概要	和歌山市の文化向上発展に特に顕著な功績のある個人又は団体に対し表彰を行う。文化表彰選考委員会の推薦を経て市長が決定する。			
成果	文化賞1名文化功労賞2名文化奨励賞1名1団体を表彰し、市民のふるさとの誇りを高めることに繋がった。			
課題	文化表彰制度についての広報活動や情報収集など、今後もより多くの候補者の選定に努める必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
文化団体活動支援事業		1,346千円	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市の文化振興を目的とする。			
事業の概要	各種文化団体の活動を支援するため補助金の交付を行う。			
成果	各種文化団体の活動を支援することを目的に、文化振興及び運営補助金として8団体、事業開催補助金として3団体に補助金交付を行い、文化団体の更なる活動の活性化に繋がった。			
課題	文化の振興や後継者の育成にかなった事業であるか検証していく必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
和歌山市美術展覧会事業		3,322千円	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市における美術工芸の振興と鑑賞愛好の精神を高め、市民の文化水準の向上を図るため、美術展覧会を開催する。			
事業の概要	洋画・日本画・書道・写真・彫塑・工芸・いけ花の7部門による公募の展覧会を開催する。			
成果	洋画・日本画・書道・写真・彫塑・工芸・いけ花の7部門の作品477点を部門別に審査し、市長賞をはじめとした6つの各賞を授与した。市民会館にて4会期に分けて展示した。また、各会期中には審査会委員によるギャラリートークを開催し、多くの来場者が訪れ、盛況に終わった。本市の美術文化の振興に寄与した。			
課題	展覧会の出展数が伸び悩んでいるため、学校等への働きかけを強化していきたい。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
真舟芸術振興基金事業		7,223千円	文化振興課	A
事業の目的	若手芸術家の育成や伝統文化の承継を目的とする。			
事業の概要	年間を通じて書道講習会事業・若手芸術家育成事業・子ども和太鼓ワークショップ事業を実施する。			
成果	年間を通じて書道講習会事業（受講者51名、書道展覧会12月23日～1月7日開催）・若手芸術家育成事業（2名）・子ども和太鼓ワークショップ事業（5校・参加者365名）を実施し、広く市民に芸術・文化の振興を図れた。			
課題	文化の振興や後継者の育成にかなった事業であるか検証していく必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
市民会館管理運営事業		204,985千円	文化振興課	A
事業の目的	市民会館を安全に利用できるように維持管理する。			
事業の概要	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団を指定管理者とし、会館の貸出業務、管理業務や自主事業を実施する。			
成果	施設利用者243,315人、利用件数は2,443件。自主事業48を開催し、地域の文化の振興に寄与した。			
課題	建物の老朽化が進んでおり、指定管理者と協力しながら修繕等を行う必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	② 芸術・文化の振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
和歌の浦アート・キューブ管理運営事業		47,989千円	文化振興課	A
事業の目的	和歌の浦アート・キューブを安全に利用できるよう維持管理する。			
事業の概要	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団を指定管理者とし、会館の貸出業務、管理業務や自主事業を実施する。			
成果	施設利用者47,080人、利用件数は2,819件。自主事業18を開催し、地域の文化の振興に寄与した。			
課題	利用者の拡大に努める必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
スポーツ推進委員との連携事業		1,407千円	スポーツ振興課	B
事業の目的	和歌山市の事業への協力及び各地区でのスポーツの振興を進めているスポーツ推進委員との連携強化に努めるとともに、スポーツ人口の増加、振興を図ります。			
事業の概要	地域スポーツの振興及び普及のため、指導や助言を行い、地域住民のスポーツへの関心を高める活動を行っています。 また、共催事業として、年4回開催の「ふれあいスポーツ教室」及び元旦に開催する「新春つれもて歩こう走ろう会」の企画運営を行う。協力事業として、和歌山市主催の「健康ウォーキング」や「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」への運営協力を行っています。			
成果	スポーツ推進委員については、地域のスポーツのための活動や、市主催の新春つれもて歩こう走ろう会や、和歌浦ベイマラソンへの協力、また、ニュースポーツを体験できるふれあいスポーツ教室を開催し、市民の方がスポーツに親しむ機会を与えることができた。			
課題	ここ数年、スポーツ推進委員の高齢化や、ふれあいスポーツ教室の参加者の獲得のため、周知方法等の見直しや、新たなニュースポーツを取り入れるなどの協議、検討をする必要があります。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
スポーツ教室開催促進事業		182千円	スポーツ振興課	B
事業の目的	地域間、住民間の親睦・交流を深めながら、スポーツの振興を図るため、各地域に即したスポーツ教室やスポーツ大会を開催します。			
事業の概要	地域間・住民間の親睦、交流を深めつつ、スポーツの振興を図るため各地域に即したスポーツ教室やスポーツ大会等を開催するにあたり、各地区へ業務を委託している。			
成果	各地域に即したスポーツ教室、スポーツ大会等を開催することで、地域住民の親睦・交流が図れ、地域スポーツの振興が図られた。			
課題	各地域において、例年、同様のスポーツ教室やスポーツ大会が実施され、住民間の親睦が図られている。限られた予算の中で、新たな取り組みは難しいと考えられるが、地域の子どもから高齢者まで、より多くの住民が参加できる教室等を検討する必要があります。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
学校体育施設開放事業		8,625千円	スポーツ振興課	A
事業の目的	小・中学校体育施設（グラウンド・体育館）を、野球、ソフトボール・サッカー等の使用目的のある生徒、その他一般市民に貸し出すことで、スポーツの振興に寄与し、市民の健康保持増進と、スポーツ人口の増加を図ることを目的とします。			
事業の概要	「和歌山市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則」により、学校グラウンドを学校教育に支障のない範囲で児童・生徒やその他一般市民に開放する。また、学校体育館の開放については、学校ごとに運営委員会を設置し、運営委員会は、教育委員会の指示に基づき、学校施設の開放に伴う円滑な運営にあたる。			
成果	地域の人々の余暇活動として、スポーツができる環境を提供することにより、市民の誰もがスポーツを楽しむことができ、地域スポーツの振興が図られた。			
課題	学校体育館及びグラウンドを利用する団体は、非常に多く、地域スポーツの振興や、余暇活動の場として、広く市民が利用することで、親睦が図られていますが、利用団体が多くなることで、マナーを守らない団体も一部見受けられます。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
事業名		決算額(事業費)	担当課	担当課評価
市民マラソン（和歌浦ベイマラソンwithジャズ）開催事業		12,968千円	スポーツ振興課	A
事業の目的	和歌山市最大規模を誇るスポーツイベント「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」を開催することにより、市民のスポーツ意識の向上や、体力の向上を図ることを目的とします。 また、1万人規模の大会で集客力も期待でき、本市の地域活性化にも寄与します。			
事業の概要	ジャズとマラソンを融合させた、わが国初のミュージックマラソンとして開催。ハーフマラソン・10km・5km・3km・2kmジョギングの各種目を通じて、風光明媚な和歌浦の絶景の中をランナーが駆け抜ける市民マラソン大会であり、和歌山県内のみならず、全国各地から参加者が訪れる。			
成果	11月29日に開催された「第15回和歌浦ベイマラソンwithジャズ」は、全国各地から、12,533名のエントリーがあり、和歌山市のPR及び、地域の活性化にも寄与した。			
課題	今回で15回目を迎え、全国のランナーには定着した大会となっているが、新しい参加者を和歌山市に招くためにも、新たな種目や、開催時期、定員など、協議していく必要があります。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	各種競技団体との連携事業（スポーツ交流大会、ジュニアサッカー教室など）	4,354千円	スポーツ振興課	A
事業の目的	和歌山市体育協会や、和歌山市スポーツ少年団などの様々な競技団体と連携を密にすることで、市民がスポーツに接する機会を創出し、スポーツ人口の増加を図ることを目的とします。			
事業の概要	各種競技団体と連携して、市民の誰もが参加できる生涯スポーツ交流大会や、小学生を対象としたジュニアサッカー教室、障害者卓球大会を開催する。また、和歌山市スポーツ少年団の各種競技大会を開催し、青少年の健全育成を図る。			
成果	各種競技団体と連携した、生涯スポーツ交流大会や、人気のジュニアサッカー教室、また、障害者と健常者が一緒に行う障害者卓球大会を開催することにより、青少年の育成やスポーツの振興、普及に寄与した。			
課題	各種競技大会の参加者数の確保のため、市民への周知方法、競技種目の変更や追加を協議、検討する必要がある。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち			
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興	
	事業名	決算額(事業費)	担当課	担当課評価
	スポーツ拠点づくり推進事業（U-12セーリングチャンピオンシップ全国大会開催）	4,000千円	スポーツ振興課	A
事業の目的	（一財）地域活性化センターの助成金活用事業で、平成20年度に「U-12セーリングチャンピオンシップ全国大会」がスポーツ拠点づくり推進事業として認定されました。この事業は、小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に実施しようとする市町村とスポーツ団体の取組みを支援することで、青少年の憧れや目標とするスポーツとの拠点を形成し、スポーツ振興と地域の再生を促進することを目的とします。			
事業の概要	和歌山マリーナシティにおいて、JOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップ（ジュニア部門）を、毎年、多くの参加者を迎え開催している。			
成果	競技団体と連携し、ジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップ全国大会を開催することで、和歌山市の知名度の向上、青少年の健全育成やスポーツの振興、普及に役立った。また、本市の地域活性化にも寄与できた。			
課題	この全国大会は、（一財）地域活性化センターの拠点づくり推進事業助成金を、大会運営の一部に充てていますが、助成期間が平成29年度で終了となるため、平成30年度以降の財源について協議、検討が必要となります。			

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
各種大会及び合宿等誘致事業		6,879千円	スポーツ振興課
事業の目的	平成27年に和歌山で開催される「紀の国わかやま国体」に向け、市内におけるスポーツ大会、スポーツ合宿などの開催を積極的に誘致することにより、本市のスポーツ振興を促進し、青少年のスポーツへの関心、競技力の向上などを図ることを目的とします。		
事業の概要	県内外の小・中・高校生のスポーツ大会・合宿等の誘致活動を積極的に行うことで、本市のスポーツの振興を促進し、青少年のスポーツへの関心・競技力の向上を目指し、実施している。		
成果	本市の小・中・高校の児童、生徒が、本県以外の児童、生徒とのスポーツ大会や、交流試合、合同練習の機会を得られ、本市のスポーツの振興を促進し、青少年のスポーツへの関心や競技技術の向上に寄与できた。		
課題	紀の国わかやま国体の終了したため、それ以降の申請については、観光課のコンベンション事業で対応することとなった。 平成28年度から、観光課へ完全に移行しました。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
事業名		決算額(事業費)	担当課
つつじが丘テニスコート管理運営事業		54,778千円	スポーツ振興課
事業の目的	つつじが丘テニスコートの管理運營業務を、指定管理者が自らの創意工夫により、利用者サービスの向上や、利用率の向上を図ります。 また、つつじが丘テニスコートは、県内有数の大型テニスコートであり、一般の利用だけでなく、大規模なスポーツ大会やテニスの合宿地としての誘致活動を積極的に行い、県内外のテニス愛好家に利用してもらうことを目的としている。		
事業の概要	つつじが丘テニスコートは、コート数が全20面の大型施設であり、民間ノウハウを最大限に発揮し、利用率向上や、大会や合宿の誘致に繋げるため、利用料金制を採用している。 また、大会や合宿の誘致のため、教育委員会、指定管理者、観光協会が協力し、誘致活動に努める。		
成果	平日は、一般市民の利用や、学校の部活動での利用、また、土日は、テニス大会などが開催された。また、指定管理者の自主事業としてテニススクールも開催され、テニス競技の発展、普及に寄与できた。 また、大学や社会人のテニス合宿も行われ、県内外からの利用促進にも繋がった。		
課題	紀の国わかやま国体の硬式テニスの会場として使用され、全国の選手にも十分に満足してもらえたが、今後、大規模な大会を誘致するにあたり、駐車場不足や観客席屋根の問題をクリアしていかなければならない。		

分野別目標	5 子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		
政策	4 文化・スポーツの振興	施策	③ 生涯スポーツの振興
	事業名	決算額(事業費)	担当課
	体育施設予約システム整備・運用事業	794千円	スポーツ振興課
			担当課評価
			A
事業の目的	体育施設予約システムを運用することで、市民サービスの向上並びに施設の稼働率アップを図ります。		
事業の概要	体育施設予約システムを運用することで、施設窓口に出向くことなくスムーズに施設予約をすることができ、利用者に対する利便性の向上や市民サービスに繋がる。また、施設の稼働率アップにも役立つ		
成果	施設利用者が、体育施設予約システムを活用することで、市民サービスの向上や、利便性の向上が図られた。		
課題	更なる稼働率アップや利便性の向上のため、市民に対し、予約システムの活用を周知することが必要である。		

2 教育委員会事務評価委員会評価

＜対象とする事務事業：8事業＞

評価項目

教育委員会の権限に属する事務事業のうち、児童生徒に深く関係する教育行政の推進上重要な施策のうち、次の8事業を評価対象事業として評価を実施いたしました。

事務事業	担当課	事業概要
①学校体育事業(新体力テストの実施、外部指導者の配置など)	スポーツ振興課	<p>各種競技大会の実施に係る審判報償金の支出や、公立中学校、市立和歌山高等学校に、専門的な技術指導力を備えた指導者がいない場合に、学校の要請を受けて派遣する外部指導者報償金の支出や、中学校総合体育大会に係る派遣補助金等を支出する。</p> <p>また、子どもの体力向上事業として、毎年、新小学1年生と新中学1年生に対し、パワーアップチャレンジ手帳を配付する。</p>
②基礎学力向上事業	学校教育課	<p>「紀州っ子学びノート」を小学生全員に配付し、授業や補充学習・家庭学習で活用し、読む力・書く力・伝え合う力を伸ばす。</p> <p>「うちどく推進校」として、20校園程度をパイロット校に指定。うちどく図書を配備し、読書環境の充実・読書活動の推進を実践する。</p> <p>子どもの基礎学力向上への取組みとして、7小学校、2中学校を研究校に指定し、学力向上に向けて研究を進める。</p>
③こども科学館運営事業	こども科学館	<p>科学展示</p> <p>自然科学を理解させるため、郷土の生物・地学に関する資料、科学に関する展示を行う。</p> <p>プラネタリウム投影</p> <p>正しい宇宙感を育てるため、こども達が興味を抱く天体や宇宙の解説を行う。</p> <p>普及活動</p> <p>自然科学をより深く理解し、情操豊かなこどもの育成に資するため実験、観察、工作等を行う。</p> <p>科学に関する調査研究</p> <p>こども科学館の目的を達成するため、科学に関する調査研究を行い、またその情報を提供する。</p>

事務事業	担当課	事業概要
④不登校児童・生徒の学校復帰支援事業	子ども支援センター	不登校児童生徒に対して、学習活動を支援するとともに、仲間との触れ合いや体験活動を通じて集団への適応指導や生活指導を行う。 また、学校や家庭、関係機関等との連携を深め、学校復帰を支援する。
⑤学習補充教室推進事業（和歌山大学との連携協力推進事業）	教職員課	和歌山大学教育学部と委託契約を結び、和歌山大学教育学部内に学習支援推進室を設置することで、学校現場と学校の支援活動を希望し登録している学生それぞれのニーズを調整し、和歌山市の公立幼・小・中・高等学校の教育活動に学生を派遣する。学生は、授業補助や部活動指導補助等をボランティアで行っている。
⑥図書館サービス運営事業	市民図書館	本館及び移動図書館の巡回による図書館サービスを行う。上映会、講演会等の図書館行事を催し、市民の文化活動を奨励する。 「図書館だより」を発行し、市民に図書館の利用を促す。図書リサイクルを実施し、資源の再利用を図る。県公共図書館協会を通して図書館を取り巻く情報等を収集し館の運営に活用する。
⑦放課後児童健全育成事業（若竹学級）	青少年課	小学校の余裕教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供する。
⑧放課後児童健全育成事業（民間保育園）	青少年課	民間保育園に委託することにより、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供する。

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ①学校体育事業(新体力テストの実施、外部指導者の配置など)

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	教育総務	部	スポーツ振興	課
	長期総合計画 における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	学校教育の充実	
		施策	健康教育の充実	基本方針	学校体育の充実	
	根拠法令及び個別計画	和歌山市スポーツ推進計画				
	3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	○	
	関連課・関連事業					
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】					

事業期間	開始年度	平成19年度	終了年度	
事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
	小・中・高校の児童・生徒 運動部活動外部指導者	各種体育大会(陸上・サッカー・水泳など)の実施や、小・中・高校に運動部活動外部指導者を派遣することで、学校体育の育成と振興を図る。新体力テストにおいては、生涯にわたって健康で活力ある生活を送ったり保持増進に努めたりするために行っている。		
事業の内容	各種体育大会の実施に係る審判報償金の支出や、公立中学校、市立和歌山高等学校に専門的な技術指導力を備えた指導者がいない場合に、学校の要請を受けて派遣する外部指導者報償金の支出や、中学校総合体育大会に係る派遣補助金等を支出しています。 また、子どもの体力向上事業として、毎年、新小学1年生と新中学1年生に対し、パワーアップチャレンジ手帳を配付し、子どもの体力向上に繋がるよう取り組んでいます。			

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く				人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)		
	28年度当初予算	13,129	国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源	13,129	9,469	22,598	常勤 1.14 非常勤 0.38
	27年度決算	71,980					71,980	9,469	81,449	常勤 1.14 非常勤 0.38	
	26年度決算	8,884					8,884	7,912	16,796	常勤 1.01 非常勤 0.02	

28年度当初予算
主な内訳(千円) 運動部活動外部指導者報償金 3,184 体力向上事業(パワーアップチャレンジ手帳) 341
和歌山県中学校体育連盟負担金 768 全国高等学校総合体育大会ヨット競技開催補助金 3,722
中学校総合体育大会審判員報償金 375

評価指標	活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		各種体育大会実施件数	件	目標	32	32	32	32	32	32	過去の実績に基づいた目標となっている。
				実績	32	32	32	31			
	長期総合計画		達成率	100.00%	100.00%	100.00%	96.88%				
	成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
				運動部活動外部指導者数	人	目標	35	35	35	35	35
長期総合計画			実績	32	28	31	34				
		達成率	91.43%	80.00%	88.57%	97.14%					

評価指標	成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		小学生の体力テストの全国平均を(数値=50)とした場合の合計点(Tスコア)	○	目標	50	50	50	50	50	50	和歌山市スポーツ推進計画の中で目標となっている。
				実績	48	47.2	48.4	48.0			
	長期総合計画		達成率	95.02%	94.40%	96.80%	96.00%				
	成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
				中学生の体力テストの全国平均を(数値=50)とした場合の合計点(Tスコア)	人	目標	50	50	50	50	50
長期総合計画			実績	43.73	44.2	45.9	46.4				
		達成率	87.46%	88.40%	91.80%	92.80%					

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	<p>新体カテストについては、小学校においては26年度(和歌山市)と比べほぼ横ばいである。中学校においては、26年度(和歌山市)と比べると、全ての種目において値が高くなっている。特効薬的なものはないが、体力向上の取組みの一つとして、和歌山市独自で「パワーアップチャレンジ手帳」の活用が挙げられる。全国との比較では、柔軟種目は全国を上回る学年が小学校では多いが、持久走種目においては小中ともどの学年も全国平均を下回り課題がある。</p> <p>外部指導者においては、今年度すでに38名の希望があり、年々増加傾向にある。一番のメリットとしては、専門性に優れるため、技術面において生徒の技量を効率的に向上することができる。また、技術面の向上だけでなく、生徒のケアも含め、学校教育の一貫として充実した活動を行っている。</p>	未実施都市の有無 有 ・ 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか) <input type="checkbox"/> 増加している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	妥当性評価(事業手段は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか) <input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか) <input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか) <input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度) <input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	効率性評価(事業費を抑制できるか) <input type="checkbox"/> できない <input checked="" type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる
	効率性評価(受益者負担の見直し) <input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要	

廃止又は休止した場合の影響	体カテストを行わない場合に考えられることとして、体力の低下が考えられ、ここから波及していく問題点が多数出てくる可能性がある。①学習意欲の低下にもつながる。②肥満傾向を招く③モチベーションの低下④色々な面を総括すると、将来的により良い社会を築きあげることができなくなる。等、自分自身の体力に興味をもてなくなることでデメリットが多く考えられる。 外部指導者の派遣においては、子ども達のスポーツに対するモチベーションの低下につながり、部活動をとおした人間関係の良好、または顧問との関係性も損なわれていく可能性がある。また、指導者側(担当教員)としては、専門性でない担当を受けもった場合の負担がとて大きく、能率的な練習もできない可能性が高くなる。
----------------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	各種体育大会を開催することで、児童や生徒の健全育成や他校の児童、生徒との親睦や交流が図れることから、引き続き事業を継続し、生涯にわたり体育・スポーツに親しむ基礎を培うことで、健康で豊かな学校生活を送ることができます。 また、子どもの体力が低下傾向にあることから、体力向上に向けた取組として、パワーアップチャレンジ手帳を全児童・生徒に配布し、自分自身が体カテストの結果を記入することで、意識付けを行い、体育・スポーツに対し、真剣に取り組む姿勢が身に付く。
-----------------	---

見直し・改善(案)	小・中学校の児童や生徒の健全な育成を一層図れるようにすることが大切である。そのために新体カテストにおいては、和歌山県は結果を踏まえた上で体育の授業改善を行っていく「体力アッププラン」を作成しそれに基づいて授業を行っている。市独自としては、個人が所有する「パワーアップチャレンジ手帳」の活用を有効にすること(計画的に体育の授業や部活動等で活用する)でさらなる改善が図れると考えている。 外部指導者においては、練習メニューをチェックしたり、生徒や保護者にアンケート調査をしたりして、外部指導者を評価していくシステムを構築していくことで問題点に対して改善していくことができると考える。
------------------	--

事務評価委員会意見	○部活動以外にも、子どもたちが一緒に運動できるような場を設けるなどの取組を進めていただきたい。また、そうした居場所を作ることによって、不登校問題等の減少につながるか。 ○パワーアップチャレンジ手帳を児童・生徒に配付した後本人任せにするのではなく、クラス担任と定期的に振り返るなど、学校との連携を図った上で活用していただきたい。また、その手帳に保護者のコメント欄を設けるなどすることで、家庭内でのコミュニケーションも生まれるのではないかと。 ○新しい部を作りたい場合など、子どもたちが部活動に関する意見を出せる場を設けていただきたい。 ○運動部活動の育成だけでなく、幼・小・中・高全ての子どもの体力の底上げにも目配せいただきたい。
------------------	---

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名	②基礎学力向上事業
-------	-----------

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	学校教育	部	学校教育	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	学校教育の充実		
		施策	小・中学校教育の充実	基本方針	子どもたちの確かな学力の定着と向上		
	根拠法令及び個別計画						
	3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	○		
	関連課・関連事業						
事業実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】						

事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	
事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
	小学生 (読書活動推進事業のみ中学生、市立幼稚園児も対象)	確かな学力の定着と向上		
事業の内容	○「紀州っ子学びノート」を小学生全員に配布し、授業や補修学習、家庭学習で活用し、読む力、書く力、伝え合う力を伸ばす。 ○読書活動推進事業:「うちどく推進校」として、20校園程度を推進校に指定し、うちどく図書を配備し、読書環境の充実、読書活動を推進する。 ○放課後学習等フォローアップ事業:放課後の学習タイムを充実させることで、基礎的な学習が定着するよう演習の時間を設ける。			

事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
28年度当初予算	6,123	1,540	503			4,080	7,059	13,182	常勤	0.97
27年度決算	12,282	1,070				11,212	7,416	19,698	常勤	0.97
26年度決算	5,563					5,563	6,328	11,891	常勤	0.85
									非常勤	

28年度当初予算主な内訳(千円)	報償金 4,860千円、図書購入費 1,000千円 ほか
------------------	------------------------------

活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	放課後学習等フォローアップ実施校	校	目標				30	30	53	全小学校で実施
			実績				11	14		
			達成率				36.67%	46.67%		
長期総合計画										

成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	放課後学習等フォローアップ事業学習支援員活用率	時間	目標				2,100	2,100	3,710	全小学校で実施
			実績				1,456			
			達成率				69.33%			
長期総合計画										

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市47市中31市で「うちどく」が実施されている。北海道など、都道府県全体で推進している地域もある。	未実施都市の有無
			(有) . 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input checked="" type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響	「うちどく」図書は、図書室よりももっと本を身近に置き、読書を推進するために、児童玄関や職員室前、教室前の廊下等にベンチを配置し、「うちどくコーナー」を設置している。コーナーが廃止されてしまうと、身近な本がなくなってしまう、読書から遠ざかってしまう児童ができることが予想される。 放課後学習等フォローアップ事業については、学習習慣を身に付ける機会、復習や個別学習を行う機会が減り、学力を定着させられない児童がでてくる。
---------------	---

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	子どもの基礎学力向上のため、本事業では3つの方向から課題解決に迫る。 「紀州っ子学びノート」では、児童の考える力・書く力をつけるため、各学年の学習内容と関連させて、学年それぞれのノートを作成し、活用している。 読書活動推進事業では、「うちどく推進校」を指定して、児童の読書活動を推進し、言葉を育て、心を磨く。 放課後学習等フォローアップ事業においては、放課後の学習タイムを充実することで、演習量を増やしたり、つまづきを少なくしていく。 いずれの事業も、子どもの基礎学力向上のため、継続して充実させていかなければならない。
----------	--

見直し・改善(案)	紀州っ子学びノートは、今後も必要に応じて改定を行い、内容を充実させていく。 うちどく推進校では、貸出しの促進と「うちどくノート」の活用をすすめる。
-----------	--

事務評価委員会意見	○放課後学習フォローアップ事業について、実施校数と目標校数に大きな差があるため、より多くの学校が参加するよう積極的に取り組んでいただきたい。 ○紀州っ子学びノートについては、配付するのであれば子どもたちにきちんと内容が伝わるような形で活用していただきたい。また、中身についても、子どもたちにとって使いやすいような形に改善する必要があるのではないかと。 ○うちどくや紀州っ子学びノートについては、その結果が数値では表れないが、これから大学入試も変わり、求められるものも変わってくる中で、これらの活用の仕方がより重要になってくるのではないかと。 ○各事業において、その効果を適切に判断できる材料を持つことで、予算要求に反映させていただきたい。
-----------	--

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名	③こども科学館運営事業
-------	-------------

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	学校教育	部	こども科学館	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	青少年の健全育成		
	根拠法令及び個別計画	施策	青少年の健全育成	基本方針	青少年の健全育成環境の充実		
	3つの約束	産業を元気に		まちを元気に		人を元気に	○
	関連課・関連事業						
	事業実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】					

事業概要	事業期間	開始年度	平成18年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
事業の内容	子ども(主に中学生以下) こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。				
事業の内容	科学展示 自然科学を理解させるため、操作体験型の展示物設置や郷土の生物・地学、天体に関する展示を行う。 プラネタリウム投影 正しい宇宙感を育てるため、子ども達が興味を抱く天体や宇宙の解説を行う。 普及活動 自然科学をより深く理解し、情操豊かなこどもの育成に資するため実験、観察、工作等を行う。 科学に関する調査研究 こども科学館の目的を達成するため、科学に関する調査研究を行い、またその情報を提供する。				

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	1.01
	28年度当初予算	10,792					10,792	11,170	21,962	非常勤	1.56
	27年度決算	10,321					10,321	9,476	19,797	常勤	0.67
	26年度決算	10,640					10,640	8,928	19,560	非常勤	1.9
28年度当初予算 主な内訳(千円)	展示物保守点検業務委託、プラネタリウム保守点検業務委託 4,180千円 プラネタリウム番組ソフト借上げ料 4,796千円										

評価指標	活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
		普及活動開催回数	回	目標	131	98	130	131	111	天体観察会と普及教室の「星空散歩」は対象が一般で、子どもに対する教育効果が少なく、28年度から実施しないので、目標値は低下している。28年度から学校でこどもを対象とした学校天体観察会を実施する。
				実績	135	96	130	131		
	長期総合計画		達成率	103.05%	97.96%	100.00%	100.00%			
	成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
				目標						普及教室の実施予定回数が昨年度より20回減少しているが教室をより魅力的なものとして1回の参加者人数増加を図りたい。
実績										
長期総合計画		達成率								

評価指標	成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
				目標	4,286	3,502	4,932	4,932	4,880	普及教室の実施予定回数が昨年度より20回減少しているが教室をより魅力的なものとして1回の参加者人数増加を図りたい。
				実績	5,157	3,810	4,056	4,378		
	長期総合計画		達成率	120.32%	108.79%	82.24%	88.77%			
	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
			目標							
実績										
長期総合計画		達成率								

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市47市のうち科学館事業を持つのは21市、科学館にプラネタリウム施設を併設して持つ市は19市	未実施都市の有無
			○ 有 ・ 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標ほどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響	専門的に科学普及教室を実施する機関が他にないので、和歌山市民(子ども)が科学教育を受ける機会が減少する。
---------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	普及教室の「9歳までに身につけたい科学」と「親子生き物博士教室」は、抽選をするほど申込者が増加し、その需要は伸びる傾向にある。普及活動参加者数の年度別達成度が100%近くになりにくいのは、雨天中止や当日キャンセルする参加者がいくらかあることも原因としてあげられる。毎週日曜日に実施するミニサイエンスの参加者は、期待するよりも少ないことがある。
----------	---

見直し・改善(案)	「自然に親しむ教室」や「特別サイエンス」や毎日曜日開催の「ミニサイエンス」など抽選のない教室の内容をより魅力的なものとして、教室参加者を増やし、科学教育の普及に努めたい。 開館以来ほとんど改修されていない老朽化した2階展示物を、系統的に物理の概念が習得できるような操作体験型の展示物群に改修して、より一層こどもの科学教育に貢献したい。
-----------	--

事務評価委員会意見	○平日の開館時間を延長するなど、もっと平日に利用しやすい環境が必要ではないか。 ○イベント開催で学校を訪問する機会を利用して、訪問先の先生を講師ができるくらいまで育成することで、その輪を広げていくような友の会的なシステムを作ってみてはどうか。また、そうすることで科学館の職員が、新たな業務に取り組むことができるのではないか。 ○事業を拡大するという点において、広く市民の力を借りることも意識されるといいのではないか。
-----------	--

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ④不登校児童・生徒の学校復帰支援事業

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	局	学校教育	部	子ども支援センター	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち		政策	学校教育の充実		
		施策	小・中学校教育の充実		基本方針	子どもたちの豊かな心の育成		
	根拠法令及び個別計画	子ども支援センター条例						
	3つの約束	産業を元気に		まちを元気に		人を元気に	○	
	関連課・関連事業							
事業実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】							

事業概要	事業期間	開始年度	平成24年度		終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)			
		和歌山市在住の不登校が継続している小中学生	適応指導教室の通級児童生徒に対して、さまざまな体験活動を通して達成感を味わうことで自信につなげ、学校復帰を図る。			
事業の内容	不登校児童生徒に対して、学習活動を支援するとともに、仲間との触れ合いや体験活動を通じて集団への適応指導や生活指導を行う。また、学校や家庭、関係機関との連携を深め、学校復帰を支援する。 ・体験活動、野外活動の充実 ・教室環境の充実 ・学校復帰に向けたチャレンジ登校の実施 ・学習支援の充実 ・在籍校担任や保護者との定期面談の実施 ・教職員対象の研修会、講演会の実施					

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	28年度当初予算	450					450	10,575	11,025	0.78	2.1
	27年度決算	530					530	10,575	11,105	0.78	2.1
	26年度決算	620					620	9,796	10,416	0.78	2.03

28年度当初予算主な内訳(千円) 報償金 315千円 費用弁償 40千円 消耗品費 33千円

評価指標	活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		不登校に関する研修(ふれあい講座)の回数	回	目標	2	2	2	2	2	2回	臨床心理士や大学教授による教職員対象の研修会を毎年2回続ける。
				実績	2	2	2	2			
	長期総合計画	達成率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%					
	成果指標	不登校児童の割合(100人当たり)	%	目標	0.50	0.50	0.50	0.49	0.45	0.39(26年度の全国平均)	不登校児童を減らす取り組みを着実にいき、全国平均に近づけていく。
				実績	0.57	0.67	0.59	0.58			
長期総合計画				達成率	114.00%	134.00%	118.00%	118.37%			

評価指標	活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		適応指導教室開室日数	日	目標	210	210	215	215	215		学校の授業日に加え、夏休みの一部を開室する。
				実績	217	210	214	218			
	長期総合計画	達成率	103.33%	100.00%	99.53%	101.40%					
	成果指標	不登校生徒の割合(100人当たり)	%	目標	4	4	4	3.95	3.5	2.76(26年度の全国平均)	不登校生徒を減らす取り組みを着実にいき、全国平均に近づけていく。
				実績	4.43	4.69	4.89	4.26			
長期総合計画				達成率	110.75%	117.25%	122.25%	107.85%			

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	平成27年近畿中核市の適応指導教室 大津市(ウイング 1教室) 高槻市(エスペランザ 1教室) 豊中市(庄内少年文化館 千里少年文化館 2教室) 東大阪(ふれあいルーム 1教室) 姫路市(適応指導教室「ふれあい」 1教室) 尼崎市(適応指導教室「はつらつ教室」 1教室) 西宮市(適応指導教室「あすなる学級」 1教室) 奈良市(わかば教室 1教室)	未実施都市の有無
			有 . 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)	妥当性評価(事業手段は妥当か)
	<input type="checkbox"/> 増加している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか)	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input checked="" type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度)	効率性評価(事業費を抑制できるか)
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる	
効率性評価(受益者負担の見直し)		
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要		

廃止又は休止した場合の影響

現代社会の激しい変容の中、児童生徒が直面する問題は複雑多様化しており、不登校問題に取り組む専門機関の重要性は増している。本事業が廃止または休止すると不登校児童生徒が家庭以外に安心できる居場所の一つがなくなることになり、不登校問題がより深刻化、長期化することが予想される。

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	現状のコストで適応指導教室に通級する児童生徒に対する指導支援に加え、新規事業で行うアウトリーチ型の不登校児童生徒支援モデル事業と連携して、訪問支援員とともに家庭訪問を行うことで事業内容を充実させることが可能であると考えます。
----------	--

見直し・改善(案)	適応指導教室に通うことができない状態にある不登校児童生徒に対して、家庭訪問を行うことで学習支援や自立に向けた生活支援を行うためのアウトリーチ型支援の充実を図っていく必要がある。
-----------	--

事務評価委員会意見	○学習支援だけでなく、保護者支援の充実というものも不登校問題の対応として必要ではないか。 ○適応指導教室が不登校児童生徒の受け皿となる一方で、教室にも通うことができないような場合に、アウトリーチ型でバックアップするような2段階のアシストがあるのは、学校現場としても非常に助かることであるため、是非充実させていただきたい。 ○学校には行くことができないが学童保育には行くことができるような場合に、しばらくそちらで様子を見るなど、この事業で不登校問題について全てを抱えるのではなく、他の事業とも連携していくことが必要ではないか。
-----------	--

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ⑤学習補充教室推進事業(和歌山大学との連携協力推進事業)

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	学校教育	部	教職員	課
	長期総合計画 における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	学校教育の充実	
		施策	学校の教育力の充実	基本方針	家庭・地域との連携強化	
	根拠法令及び個別計画	和歌山市教育振興基本計画				
	3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	○	
	関連課・関連事業					
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】					

事業期間	開始年度	平成24年度	終了年度	
事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
	市立幼・小・中・高等学校の児童・生徒及び和歌山大学教育学部の学生	和歌山大学教育学部と連携・協力し、教育ボランティアの活動を通じて、子どもたちの基礎学力や体力の向上に寄与するとともに、未来の和歌山市の学校教育を支える人材の育成を図る。		
事業の内容	和歌山大学教育学部と委託契約を結び、和歌山大学教育学部内に学習支援推進室を設置することで、学校現場と学校の支援活動を希望し登録している学生それぞれのニーズを調整し、和歌山市の公立幼・小・中・高等学校の教育活動に学生を派遣する。学生は、授業補助や部活動指導補助等をボランティアで行っている。			

事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
28年度当初予算	4,036					4,036	3,622	7,658	常勤 0.49	非常勤 0
27年度決算	4,030					4,030	3,622	7,652	常勤 0.49	非常勤 0
26年度決算	3,972					3,972	1,304	5,276	常勤 0.18	非常勤 0

28年度当初予算
主な内訳(千円) 学習補充教室推進事業委託料 4,036千円
(事務局人件費 2,760千円、事務費(消耗品分)76千円、学習支援員派遣費(費用弁償分)1,200千円)

活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	教育ボランティア登録学生人数	目標	人	250	250	250	250	250	250
実績			217	213	188	189			
達成率			86.80%	85.20%	75.20%	75.60%			
教育ボランティア活動学生人数	目標	人	220	220	220	220	220	220	希望校(園)すべてで活動するために必要な人数
	実績		183	185	179	185			
	達成率		83.18%	84.09%	81.36%	84.09%			

成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	教育ボランティア延べ派遣校(園)数	目標	校	85	85	85	85	85	82
実績			65	63	70	71			
達成率			76.47%	74.12%	82.35%	83.53%			
教育ボランティア延べ派遣回数	目標	回	2,000	2,000	2,000	2,000	2,200	2,200	希望校(園)すべてで活動するために必要回数派遣するため
	実績		1,664	1,964	1,600	2,218			
	達成率		83.20%	98.20%	80.00%	110.90%			

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	電話での聞き取り調査の結果、連携協定を結んでいる大学数やボランティア学生の活動数等、各地域により差異があるが、和歌山市以外の46市中33市から、地元の大学と連携して学生ボランティアの派遣事業を実施しているという回答を得た。	未実施都市の有無
			(有) . 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input type="checkbox"/> 市が行うべき <input checked="" type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標ほどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響

本事業は、学校の活性化・教育力の向上につながり、和歌山市に就職する教員の育成にも寄与しているが、事業の廃止等になると、学校現場の活性化要因のひとつがなくなることになる。併せて、教員を目指す学生の数少ない実践の場が失われることになる。

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	事業開始に伴い、教育ボランティアの派遣校(園)数、派遣回数ともに増加傾向にある。ボランティア学生の手入れを行う学校(園)に行ったアンケート調査においても、子どもたちとの豊かな心の交流ができた、学校活性化につながった等、好評である。また、和歌山市の教員の育成にも寄与する事業である。
----------	--

見直し・改善(案)	派遣学校(園)でのボランティア内容の充実や登録学生1人当たりの活動回数の増加等について、和歌山大学と連携し検討していくとともに、平成27年度は、学生のボランティア活動への派遣回数が増えているため、今後、派遣費部分の予算増額が必要である。
-----------	--

事務評価委員会意見	○若い学生が実際の教育現場に入ることは、学校にとっても学生にとっても、また、子どもたちにとってもメリットがあることなので、是非充実させていただきたい。 ○事業目的である、未来の和歌山市の学校教育を支える人材の育成という点からも、学生が卒業した後、和歌山の教育現場に残ってもらえるようにする取組も事業の中に加えていくべきではないか。 ○事業内容については、かなり充実してきていると思われるが、まだ学校間で訪問回数に差があるところに、少し課題があると思われる。
-----------	--

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名	⑥図書館サービス運営事業
-------	--------------

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	生涯学習	部	市民図書館	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	生涯学習の推進		
		施策	生涯学習の推進		基本方針	「読書のまちづくり」の推進 (図書館ネットワークの構築)	
	根拠法令及び個別計画	第2次和歌山市生涯学習基本構想及び和歌山市生涯学習基本計画					
	3つの約束	産業を元気に		まちを元気に		人を元気に	○
	関連課・関連事業	生涯学習課					
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】						

事業概要	事業期間	開始年度	昭和56年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
		市民	本館及び移動図書館における図書館サービスを効率的に行うため、各種図書館資料の計画的な収集、充実を図り、これらを体系的に分類、整理、保存し、迅速・的確に提供する。		
事業の内容	本館及び移動図書館の巡回による図書館サービスを行う。 上映会、講演会等の図書館行事を催し、市民の文化活動を奨励する。 「図書館だより」を発行し、市民に図書館の利用を促す。 図書リサイクルを実施し、資源の再利用を図る。 和歌山市民図書館協議会を開催する。 県公共図書館協会を通して図書館を取り巻く情報等を収集し館の運営に活用する。				

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	28年度当初予算	71,723				13	71,710	80,237	151,960	4.3	21.7
	27年度決算	48,308				13	48,295	80,237	128,544	4.3	21.7
	26年度決算	43,425				24	43,401	89,376	132,801	6.18	21.3

28年度当初予算 主な内訳(千円)	需用費4,770千円、役務費128千円、委託料18,173千円、使用料及び賃貸借料420千円、備品購入費44,827千円等
----------------------	---

活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	行事参加人数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,500	3,350	3,500	前年の行事数をもとに目的値を設定
			実績	1,279	1,677	3,001	3,243			
			達成率	63.95%	83.85%	150.05%	129.72%			
	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	長期総合計画		目標							
実績										
達成率										

成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	市民一人当たりの貸出資料数	点	目標	2.3	2.3	2.3	2.3	2.5	2.6	移転後の新館に向けて、全国の平均値に近づけるよう目的値を設定
			実績	2.0	1.9	1.8	1.9			
			達成率	86.96%	82.61%	78.26%	82.61%			
	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	年間予約件数	件	目標	120,000	120,000	120,000	120,000	126,000	130,000	前年度の実績をもとに目的値を設定
実績			121,474	118,752	118,430	124,371				
達成率			101.23%	98.96%	98.69%	103.64%				

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	平成26年度の人口30万人台の市立図書館の状況において、図書館の市民一人当たりの貸出資料数は、平均5.06であり、和歌山市民図書館は最下位である。 また、年間予約件数は、平均221,035件数である。	未実施都市の有無
			有 . 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標ほどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響

図書館サービス運営事業を廃止、休止した場合、子どもからお年寄りまでの市民に対し、図書への関心や読書する環境がなくなる。おはなし会等行事に参加することができなくなる。

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	現状、月ごとに展示コーナー(真田丸展、吉宗展、災害対策、有吉玉青展等)を設け、新たに「和歌山魅力再発見」コーナーを設置し、様々な切り口で新しい分野の本に興味を持って頂けるよう提案している。また、展示テーマと連携した行事(コンサート、朗読会、講演会、上映会)も行っている。これまで継続してきた行事(幼児おはなし会、昔話語りの会、映画上映、おりがみ教室)に加え、新たな行事(赤ちゃんおはなし会、朗読会、コンサート、リトミック、講演会等)に取り組んできた結果、来館者が増加している。今後さらに充実させていきたい。
----------	---

見直し・改善(案)	図書館のすべての資料を市民の生涯学習支援のために役立て活用するとともに、現代の情報化社会の潮流に即応した図書館サービスの一層の展開を、あらゆる方向から検討・提案してまいりたい。また、ボランティアや図書館友の会の方々との企画や実施を協働で行い、新たな利用者層を掘り起こしてまいりたい。
-----------	---

事務評価委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ○市民一人当たりの貸出図書数が依然として少ないため、従来から取り組んでいる行事を充実させる以外にも何か方策を考える必要があるのではないか。 ○図書館を利用してもらうために情報メディアを積極的に活用することが重要ではないか。 ○蔵書数が少ないとそもそも人が来ないと思われるので、しばらくの間限られた予算を蔵書数を豊かにすることに充てられてはどうか。 ○市民図書館の貸出冊数と学校図書館の運営状況の間にある関連性を調査した上、学校等とも連携して総合的に充実させていただきたい。 ○分館が開館してから、あるいは本館が移転してから中身の充実を図るのではなく、これらも見据えた上で、現時点から事業内容を拡充していく方向で取り組んでいただきたい。
-----------	---

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名	⑦放課後児童健全育成事業(若竹学級)
-------	--------------------

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	生涯学習	部	青少年	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	青少年の健全育成		
		施策	青少年の健全育成	基本方針	学童保育(若竹学級)の充実		
	根拠法令及び個別計画	和歌山市放課後児童健全育成事業の実施に関する条例					
	3つの約束	産業を元気に	まちを元気に		人を元気に	○	
	関連課・関連事業						
	事業実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】					

事業概要	事業期間	開始年度	平成12年度	終了年度		
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)			
		保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童	授業の終了後等に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とする。			
事業の内容	・児童数が概ね40人を1学級の単位としている。 ・放課後児童支援員及び補助員を1学級あたり2名以上配置(内1名は資格を有する放課後児童支援員。また、配慮を必要とする児童がある場合などに加配)。 ・放課後に、児童が宿題をしたり、おやつを食べたり、遊んだりする居場所となる。 ・利用料は月額4千円で、経済的困難その他の事情により減額・免除の制度がある。 ・平日は午後6時30分まで、第2第4土曜は午前8時から午後5時まで、夏休みなどは午前8時から午後6時30分まで開級。 ・場所は小学校内の余裕教室を主に使用。					

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	28年度当初予算	198,374	118,369	117,649	62,100	87,018	-186,762	323,373	521,747	4.2	340
	27年度決算	60,079	64,735	63,988	8,200	76,975	-153,819	257,914	317,993	4.2	340
	26年度決算	230,400	49,763		6,100	65,564	108,953	36,029	266,429	4.08	0.96

28年度当初予算主な内訳(千円)	整備工事請負費 134,896千円(岡崎小、安原小)、 庁用器具費 20,895千円
------------------	--

活動指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	若竹学級開級数	学級	目標	57	60	61	63	79		児童数推計により必要と思われる学級開級数を算出
			実績	57	59	60	72			
			達成率	100.00%	98.33%	98.36%	114.29%			
	長期総合計画									
	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
長期総合計画										

成果指標	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	若竹学級入級者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,080	2,765		児童数推計により予測入級者数を算出
			実績	1,981	1,916	2,079	2,466			
			達成率	99.05%	95.80%	103.95%	118.56%			
	長期総合計画									
	指標名	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
長期総合計画										

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市平均 27年7月調査(学級数は民間委託や民営分を含む数) ・学級数68 ・入級者数3,182 ・待機者数92 ・指導者数309 和歌山市 ・学級数74 ・入級者数2,625 ・待機者数52 ・指導者数344 待機者数0人の市は10市(回答ありの中核市37市中)。	未実施都市の有無 有 ・ 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか) <input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	妥当性評価(事業手段は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要																															
	妥当性評価(官民の役割は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか) <input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い																															
	有効性評価(更に効果が期待できるか) <input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか) <input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)																															
	有効性評価(上位施策への貢献度) <input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	効率性評価(事業費を抑制できるか) <input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる																															
	効率性評価(受益者負担の見直し) <input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要																																
	廃止又は休止した場合の影響 保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を提供できなくなり、その健全な育成ができなくなる。																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">担当課 評価(一箇所に“○”を記入)</th> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="width: 5%; text-align: center;">事業内容の方向性</td> <td style="width: 15%;">充実</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">ゼロ</td> <td style="text-align: center;">縮小</td> <td style="text-align: center;">現状維持</td> <td style="text-align: center;">拡大</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">コスト投入方向性</td> </tr> </table>		担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					事業内容の方向性	充実			○	現状維持				縮小				廃止					ゼロ	縮小	現状維持	拡大	コスト投入方向性			
担当課 評価(一箇所に“○”を記入)																																	
事業内容の方向性	充実			○																													
	現状維持																																
	縮小																																
	廃止																																
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大																												
コスト投入方向性																																	

	廃止又は休止した場合の影響 保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を提供できなくなり、その健全な育成ができなくなる。
--	--

--	--

担当課評価の根拠	児童福祉法の改正により対象児童が平成27年度から小学6年生まで拡大された。余裕教室の活用やプレハブ建設等により、待機児童を出さない取り組みを行っているが、児童数の増える学校では、余裕教室も無く若竹学級の増設が難しい。 また、従事する職員の資格・配置基準等についても平成27年度から定められた。若竹学級を委託事業から、直営にすることによって対応を図ったが、人員の不足、運営の質の改善については課題を残している。
----------	---

見直し・改善(案)	施設整備により、待機児童を出さないようにするとともに、若竹学級に従事する職員の待遇や勤務形態を見直し、質が高く、安定した運営が出来るようにする必要がある。
-----------	---

事務評価委員会意見	放課後児童健全育成事業(民間保育園)と共通 ○より利用しやすいものとなるよう夏休みなど学校休業日の開級時間を少し早めていただきたい。 ○教育委員会が行う事業であるので、保護者の就労支援という福祉の部分だけではなく、支援員の専門性を高めるなど教育面の中身を充実させることに経費を拡充していくべきではないか。 ○学校における質のばらつきがでないよう研修の機会を充実させていただきたい。 ○支援員に長期間働いてもらえるように待遇を改善する必要があるのではないかと。 ○高齢者や主婦などが支援員として働けるような環境を整えるなど様々な人材を活用できるシステムを作っていく必要があるのではないかと。
-----------	---

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名	⑧放課後児童健全育成事業(民間保育園)
-------	---------------------

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	生涯学習	部	青少年	課	
	長期総合計画における位置づけ	分野別目標	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち	政策	青少年の健全育成		
		施策	青少年の健全育成	基本方針	学童保育(若竹学級)の充実		
	根拠法令及び個別計画	和歌山市放課後児童健全育成事業の実施に関する条例					
	3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	○		
	関連課・関連事業						
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】						

事業概要	事業期間	開始年度	平成12年度	終了年度		
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)			
		保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童	民間保育園に委託し、その施設を利用することにより、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とする。			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が概ね40人を1学級の単位としている。 ・放課後児童支援員及び補助員を1学級あたり2名以上配置(内1名は資格を有する放課後児童支援員。また、配慮を必要とする児童がある場合などに加配)。 ・放課後に、児童が宿題をしたり、おやつを食べたり、遊んだりする居場所となる。 ・利用料や時間は園ごとに異なる。 ・場所は11箇所の放課後児童健全育成事業の実績のある保育所。 ・多様な利用者支援のニーズに対応するため、事業を民間保育園に委託。 					

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	28年度当初予算	43,144	7,356	7,356			28,432	2,229	45,373	0.3	
	27年度決算	30,680	8,895	8,895			12,890	2,229	32,909	0.29	
	26年度決算	26,025	8,675				17,350	2,219	28,244	0.28	

28年度当初予算 主な内訳(千円)	保育所学童保育事業委託料43,144千円
----------------------	----------------------

活動指標	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	実施保育園数	園	目標	12	12	11	12	12		現状の保育園数の維持
			実績	12	12	11	11			
			達成率	100.00%	100.00%	100.00%	91.67%			
	長期総合計画									
	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
長期総合計画										

成果指標	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	民間保育園利用者数	人	目標	360	360	330	360	300		若竹学級を補完する上での目標値の設定
			実績	311	311	267	256			
			達成率	86.39%	86.39%	80.91%	71.11%			
	長期総合計画									
	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体目標値	目標値の設定根拠
長期総合計画										

平成28年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市の運営 27年7月調査 (和歌山市は公営を主とし一部民間委託) 公営のみ7市 公営を主とし一部民間委託等15市 委託や民営を主とする20市 その他(指定管理など)3市 (中核市47市のうち回答得られた45市)	未実施都市の有無
	委託先・民営先の例 ・大津市 公営36 民間保育園3 ・奈良市 公営65 民間保育園2 YMCA1 学童専門園1 運営委員会4 ・和歌山市 公営63 民間保育園11	有 . 無	

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)	妥当性評価(事業手段は妥当か)
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか)	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度)	効率性評価(事業費を抑制できるか)
<input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる	
効率性評価(受益者負担の見直し)		
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要		

廃止又は休止した場合の影響 保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を提供できなくなり、その健全な育成ができなくなる。

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実			
	現状維持		○	
	縮小			
	廃止			
	ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
	ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性				

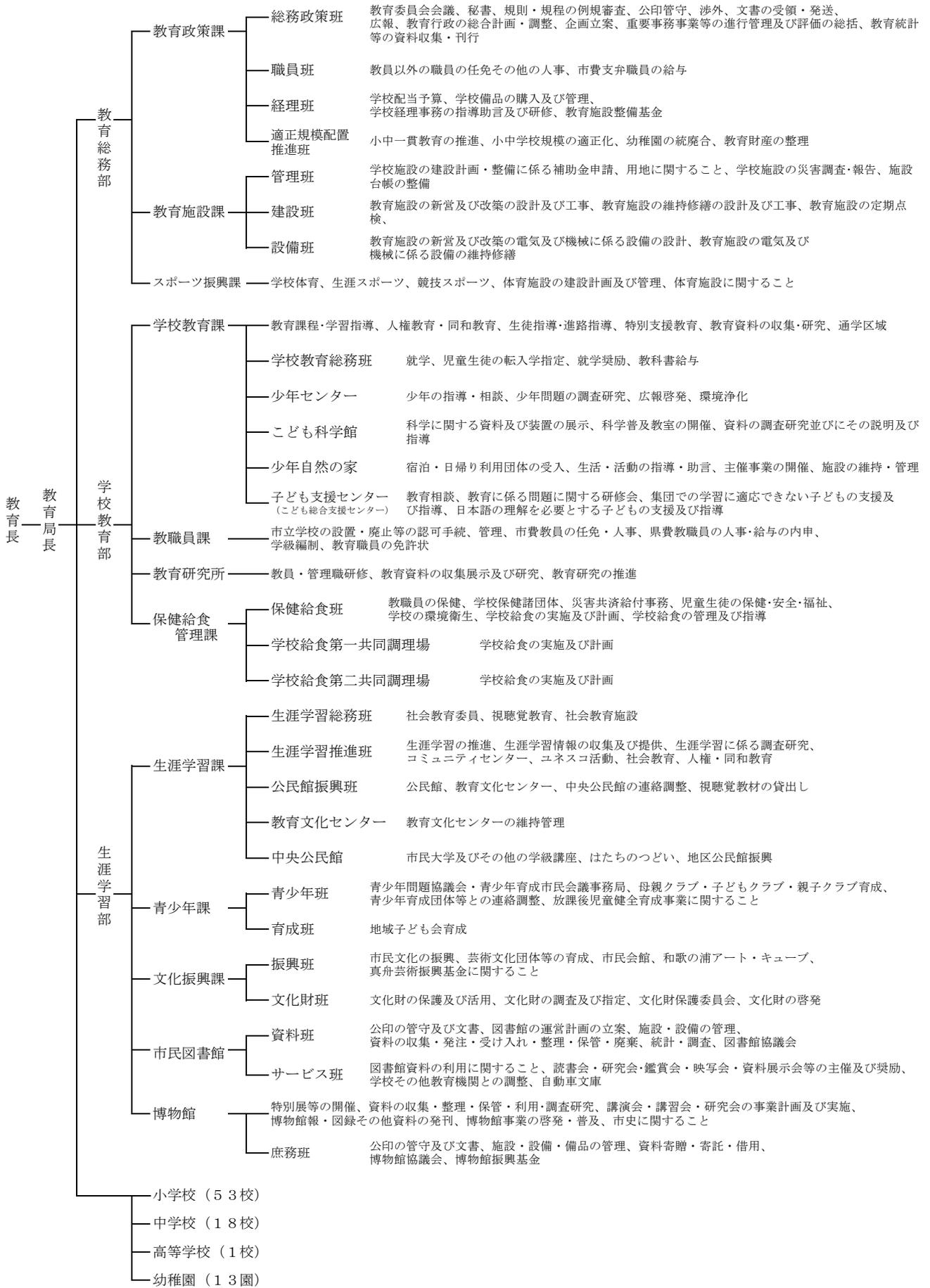
担当課評価の根拠 弟や妹が保育園に通園していたり若竹学級がない附属小学校などの児童が利用している。保育時間に融通が利くなどの理由で、若竹学級でなく保育園学童保育を利用しているケースがあり、若竹学級を補完する意味で、有効な事業であると考えており、現状の保育園数を維持していきたい。

見直し・改善(案) 若竹学級と同様、研修等により指導員の質の向上を目指していきたい。また、待機児童解消となる地域においては積極的に委託を行っていききたい。

事務評価委員会意見 放課後児童健全育成事業(若竹学級)と共通
 ○より利用しやすいものとなるよう夏休みなど学校休業日の開級時間を少し早めていただきたい。
 ○教育委員会が行う事業であるので、保護者の就労支援という福祉の部分だけではなく、支援員の専門性を高めるなど教育面の中身を充実させることに経費を拡充していくべきではないか。
 ○学校における質のばらつきがでないよう研修の機会を充実させていただきたい。
 ○支援員に長期間働いてもらえるように待遇を改善する必要があるのではないかと。
 ○高齢者や主婦などが支援員として働けるような環境を整えるなど様々な人材を活用できるシステムを作っていく必要があるのではないかと。

IV その他

1 教育委員会の組織 (平成27年4月1日現在)



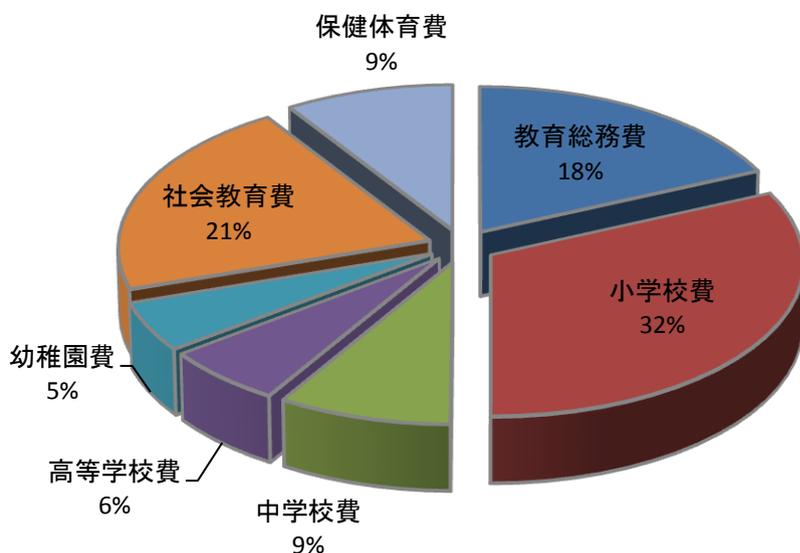
指定管理者制度導入の教育機関施設

市民会館	河南総合体育館	河西コミュニティセンター
和歌の浦アート・キューブ	市民温水プール	河北コミュニティセンター
松下体育館	市民スポーツ広場	中央コミュニティセンター
市民体育館	東部コミュニティセンター	北コミュニティセンター
市民テニスコート	河南コミュニティセンター	つつじが丘テニスコート

2 教育費決算額

① 平成27年度教育費決算額内訳

項	金額(千円)	対前年度比増減 (千円)	対前年度 伸び率(%)
教育総務費	1,885,583	53,215	2.9
小学校費	3,281,099	672,892	25.8
中学校費	886,772	-452,457	-33.8
高等学校費	623,039	1,925	0.3
幼稚園費	533,701	43,741	8.9
社会教育費	2,160,950	48,130	2.3
保健体育費	946,371	-78,767	-7.7
計	10,317,515	288,679	2.9



② 教育費決算額の推移

単位(千円)

項	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
教育総務費	2,367,721	2,046,294	2,042,737	1,832,368	1,885,583
小学校費	2,975,453	2,435,821	2,291,650	2,608,207	3,281,099
中学校費	922,854	1,321,713	815,159	1,339,229	886,772
高等学校費	624,026	645,934	614,818	621,114	623,039
幼稚園費	471,511	462,534	461,408	489,960	533,701
社会教育費	2,005,078	1,908,816	2,045,651	2,112,820	2,160,950
保健体育費	891,900	1,212,880	2,413,698	1,025,138	946,371
計	10,258,543	10,033,992	10,685,121	10,028,836	10,317,515

3 関連法令等

① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例

（設置）

第 1 条 教育委員会の附属機関として、和歌山市教育委員会事務評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により教育委員会が行う同項の点検及び評価について調査審議し、教育委員会に意見を述べるものとする。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以内で組織する。

2 委員は、教育に関する学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから、教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 4 条 委員の任期は、委嘱した日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 6 条 委員会の会議（以下この条において単に「会議」という。）は、委員長が招集する。ただし、委員の全員が新たに委嘱された後最初に招集すべき会議は、教育委員会が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提供を求めることができる。

（守秘義務）

第 7 条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務部において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、和歌山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 点検及び評価は、毎年、その前年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、教育行政の推進上重要な重点施策について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見を活用して自己評価結果を検証し、事務事業の改善に努めるものとする。

(結果の活用)

第3条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案及び事業実施等において活用するものとする。

(報告書の作成等)

第4条 点検及び評価の結果は、報告書を作成して議会へ提出するとともに公表するものとする。

(庶務)

第5条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務部教育政策課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、和歌山市教育委員会事務評価委員会条例（平成25年条例第49号）第3条第2項について定めるものとする。

(委員)

第2条 第3条第2項に規定する教育に関する学識経験を有する者は、次に掲げる者とする。

- (1) 和歌山大学教授またはそれに準ずる者
 - (2) 和歌山信愛女子短期大学教授またはそれに準ずる者
- 2 第3条第2項に規定する教育委員会が必要と認める者は、次に掲げる者とする。
- (1) 公立幼稚園PTA連合会を代表する者
 - (2) 小学校PTA連合会を代表する者
 - (3) 中学校PTA連合会を代表する者
 - (4) 和歌山県私立中学高等学校協会の推薦する者

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書
対象年度 平成27年度

平成28年10月

和歌山市教育委員会 教育総務部 教育政策課
和歌山市七番丁23番地
TEL 073-435-1135

